JICA中部 2024年度

開発教育指導者研修(実践編) 報告書

独立行政法人 国際協力機構 中部センター（JICA中部）

目 次

巻頭グラフ

Ⅰ　開発教育指導者研修（実践編）の概要---------- 1

1　● 目的
1　● 内容

Ⅱ　開発教育指導者研修（実践編）第１回 ---------- 3

3　● 開催概要、第 1 回のねらい
3　● プログラムの内容

Ⅲ　開発教育指導者研修（実践編）第２回 ---------- 9

9　● 開催概要、第 2 回のねらい
9　● プログラムの内容

Ⅳ　開発教育指導者研修（実践編）第３回 ---------- 14

14　● 開催概要、第 3 回のねらい
14　● プログラムの内容

Ⅴ　中間会合 ---------- 22

22　● 開催概要、ねらい
22　● プログラムの内容

Ⅵ　実践報告シート ---------- 23

23　● 実践報告シート一覧
24　● 実践報告シート 30 人分

Ⅶ　開発教育指導者研修（実践編）第４回 ---------- 54

54　● 開催概要、第 4 回のねらい
54　● プログラムの内容

Ⅷ　開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム２０２５ ---------- 57

57　● 開催概要、ねらい
57　● プログラムの内容
60　● ふりかえりシートの回答

Ⅸ　研修全体のふりかえり・評価 ---------- 62

62　● 研修への期待と満足度について
62　● 研修を受けた自分自身の意識の変化について
63　● 開発教育・国際理解教育の実践について
66　● 学習者の変化や周りへの波及効果ついて
68　● 全体を通した評価点、より良くするための提案

- MEMO -

研修の様子～第1回 開発教育指導者研修（実践編）＜6月＞

▲共通基盤づくり～全員が対等な輪になって開始～

▲『PROFILES OF HUNGER』ーなぜ人は貧困に陥るのかー

▲60 秒メッセージ「なぜここに？」→ペアで傾聴

▲派生図「肯定的・受容的な社会」

研修の様子～第2回 開発教育指導者研修（実践編）＜7月＞

▲カードで自己紹介

▲格差・不公平はどこから 「コーヒーカップの向こう側」

▲なりきり名刺交換会

▲持続可能なまちを作ろう！ーデザイン・コンペー

研修の様子～第3回 開発教育指導者研修（実践編）＜8月＞

▲アイスブレーク「マインドセットリセット」

▲言葉の宝箱・言葉のゴミ箱

▲5 ステップで作る参加型プログラム

▲プログラム発表、ファシリテーション実践

研修の様子～第4回 開発教育指導者研修（実践編）／実践報告フォーラム2024 ＜2月＞

▲第4回研修：受講者実践の共有

▲実践を通した成果・よい影響（自分／学習者／周囲）

▲実践報告フォーラム：実践報告ポスターセッション

▲実践報告フォーラム：実践体験ワークショップ

Ⅰ　開発教育指導者研修（実践編）の概要

■ 目的

本研修は、中部地域における開発教育の中核的な指導者を育成することに加え、指導者間の連携強化およびネットワーク形成を行うことを目的として、開発教育の理論や具体的な教材事例、参加型学習の理論および実践方法（ファシリテーション）等の指導法の体系的な学習をするための研修として実施する。

また、研修受講者は、学校・地域等における教育現場において自主的に開発教育を展開するほか、JICA の開発教育指導者研修（初級編）において指導を行うなど、地域の開発教育の中核的存在となることが期待される。

■ 内容

(1) **研修のねらい**

4回の研修と実践報告フォーラムを通して、受講者自らが体験的に開発教育・国際理解教育の学び方を学び、この教育の目的、扱う内容、参加型手法についての理解を深め、実践者としてのスキルアップを図る。

(2) **研修日程・内容**

回	日時	タイトルと主なねらい
第1回	6 月 22 日（土） 13:00～17:00 6 月 23 日（日） 10:00～15:00	**開発教育・国際理解教育の概論** **ーテーマについて学ぶ・テーマのために学ぶ・スキルを育てるー** ・開発教育・国際理解教育の目的、内容、方法について理解を深める。 ・学習者主体の学びと持続可能な未来のためにできることを共有する。
第2回	7 月 20 日（土） 13:00～17:00 7 月 21 日（日） 10:00～15:00	**開発教育・国際理解教育にできること** **ー“参加型”で価値観を育てる・気づきを行動につなげるー** ・人権と環境と自分たちについて、参加型で学ぶ流れを体験する。 ・“参加型”の目的を確認し、人の行動変容を支える 3 要素を理解する。
第3回	8 月 24 日（土） 13:00～17:00 8 月 25 日（日） 10:00～17:00	**開発教育・国際理解教育の作り方・進め方** **ー参加型プログラムの作り方と学習者主体の場をデザインするー** ・参加型プログラムの作り方と参加型手法を習熟する。 ・模擬ファシリテーションを通して、実践のイメージを持つ。
9月～2月：各自、学校の授業などで実践！ 11 月 16 日（土）、1 月 18 日（土）13:00～17:00 実践のフォローアップ会（自由参加）、 フォーラムでのワークショップ提供チームの検討会（有志）		
第4回	2 月 22 日（土） 10:00～17:30	**人を啓き、社会を開き、未来を拓く！** **ーつながり・つながる　開発教育の可能性ー** ・実践の成果と課題を共有し、開発教育の可能性を確認する。 ・実践報告フォーラムの準備を行う。
実践報告フォーラム	2 月 23 日（日） 10:00～17:00	・一般の参加者への実践内容報告、体験ワークショップの提供、教師海外研修報告、過年度受講者との交流を通して学びの好循環をつくる。

(3) **場　所**　JICA 中部 なごや地球ひろば2階セミナールーム

(4) **対　象**

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の教師、教育委員会の指導主事、地域国際化協会職員、NGO／NPO スタッフ、JICA 海外協力隊経験者などで、開発教育・国際理解教育を実践する場があり現在実践されている方

(5) **参加条件**

① 原則、全研修日程に参加可能な方

② 所属校や地域において実践を行い、実践報告シート（A4 版 1 枚）を 2 月中旬までに提出すること、実践報告フォーラムで発表すること、報告書冊子や JICA ウェブサイト等で学校名、氏名とともに公開されることに同意できる方

③ 本研修に関わる連絡・情報共有のため、E メールアドレスでの連絡が可能な方

(6) **ファシリテーター**

（特活）NIED・国際理解教育センター　代表　伊沢令子

ERIC 国際理解教育センターでの研修を経て、1998 年に名古屋で NIED・国際理解教育センターを設立。現在は、自治体、教育委員会、国際関係団体、大学・学校、NPO/NGO などの依頼により、年間 100 回以上の参加型ワークショップを実施している。当該研修は 10 年以上ファシリテーターを務めている。

◇ NPO 法人 NIED・国際理解教育センター　代表理事

◇ オルタナティブ・スクールあいち惟の森　テーマ・スキル学習コーディネーター

◇ 中京大学「国際理解教育論」、愛知学院大学「ファシリテーション」非常勤講師

(7) **受講者数**

34 名

所属…小学校教員 13 名、中学校教員 11 名、高等学校教員 4 名、NPO その他 6 名

地域…愛知県 22 名、岐阜県 2 名、三重県 2 名、静岡県 7 名、兵庫 1 名

年代…20 歳代 10 名、30 歳代 15 名、40 歳代 8 名、50 歳代 1 名

過年度受講経験者…6 名、教師海外研修同時受講者 8 名

※受講者のうち 3 名が都合により途中で受講を辞退し、修了した受講者は 31 名である。

Ⅱ 開発教育指導者研修（実践編）第1回

「開発教育・国際理解教育の概論」

ーテーマについて学ぶ・テーマのために学ぶ・スキルを育てるー

■ 開催概要

◆日時：2024 年 6 月 22 日（土）13:00～17:13、23 日（日） 10:00～15:23
◆場所： JICA 中部なごや地球ひろば 2 階 セミナールームA
◆参加者：［1 日目］受講者 33 名、NIED スタッフ 6 名、JICA スタッフ 3 名、オブザーバー2 名 合計 44 名
［2 日目］受講者 32 名、NIED スタッフ 7 名、JICA スタッフ 2 名、オブザーバー3 名 合計 44 名
◆ファシリテーター：（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子

■ 第１回ねらい

○ 研修の目的と全体像を確認し、研修に参加する仲間同士知り合い、学び合うコミュニティの基盤を築く。
○ アクティブ・ラーニングを通して、開発教育・国際理解教育の目的、内容、方法について理解を深める。
○ 学習者主体の学びのポイントと、持続可能な未来につながる BQOE のためにできることを共有し持ち帰る。

■ プログラムの内容

＜セッション１＞ 共通基盤づくり

1. 開会　主催者あいさつ、スタッフ紹介など

2. はじめに

- 本研修の目的と概要説明と第１回のねらいの確認
- ワークショップの3つのお願い（協力、尊重、守秘）

3. アイスブレーキング

- 参加者の属性を知るための「フルーツバスケット」
- 4つの質問の答えを書いた A4 用紙の「名刺」で自己紹介

★ファシリテーターコメント★

国際理解というと世界のことと思われがちだが、そのためには身近な他者に関心をもち、理解しようとすること、関わっていくことから始まる。さらには、自分自身に対する関心や理解なくしては他者理解にはつながっていかない。

＜セッション2＞ 開発教育・国際理解教育では何をどう学ぶのか

4. 開発教育とは何か

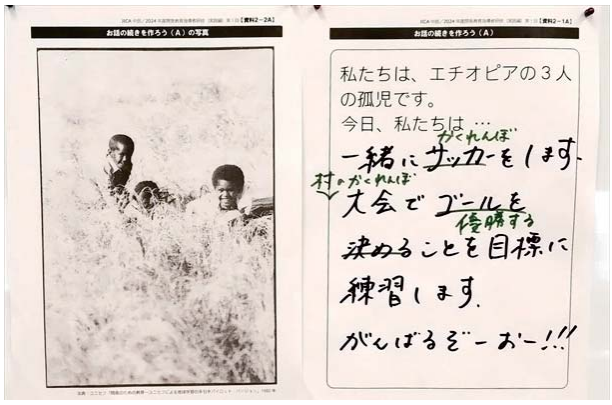
（1）お話の続きを作ろう～イメージをふりかえる・自分をふりかえる～

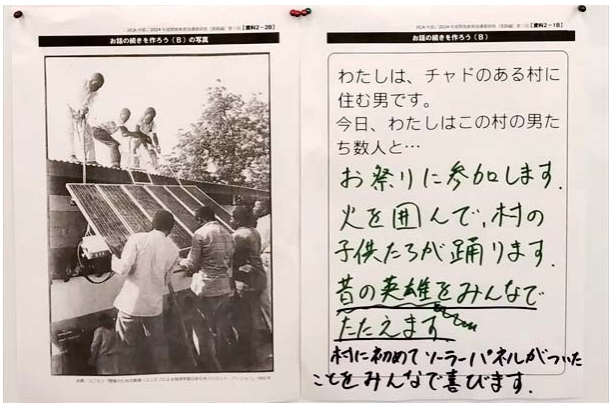
- 写真付きワークシートを各グループに配付し、ペアでワークシートの話の続きを想像するアクティビティ
- 「話の続き」の解説資料を配布し、想像した話の内容と比較する。
- 「アクティビティを通して気づいたこと・わかったこと」をグループごとに話し合う。

★ファシリテーターコメント★

国際理解教育の他国理解のベースにあるのが、自分自身がもつイメージをふりかえること。ある属性へのマイナスな固定的な思い込みのことを偏見といい、偏見が行動に表れた状態を差別という。物事を理解するためには全体像、多角的に見ること／思い込みに陥っていないかふりかえる／メディアによって情報は切り取られていることがあり、鵜呑みにすることは意図的に扇動される危険をはらんでいる。

【「お話の続きを作ろう」成果例】





★アクティビティを通して分かったこと★

・同じ写真を見ていても、一人ひとり着眼点が異なっていた。　・想像が広がり、自分の考えをふりかえり、世界への関心が高まった。　・文章、写真、説明と順番に提示されることで、毎回裏切りがあった。　・初めから解説を読むのでは気づけないことに気づくことができた。

（2）“40 時間の飢え”の意味 ー貧困とは・豊かさとは・開発とはー

①『PROFILES OF HUNGER』ーなぜ人は貧困に陥るのかー

- 写真（5 種類 1 セット）を用いたアクティビティ。写真の人物が飢えている理由を考えグループ内で共有。
- 解説を読み、飢えの本当の原因をグループ内で共有。
- 途上国の貧困と日本の貧困の原因を考え、グループで対比表にまとめる。

【対比表のまとめ】

途上国の貧困の原因	日本の貧困の原因
・教育格差　・医療技術が発達していない　・児童労働 ・障害への保障×　・治安が悪い　・カースト制度 ・社会システムの不備　・政治の不安定さ ・先進国による搾取　・紛争、内戦	・自然災害　・非正規雇用　・少子化　・物価高騰 ・ヤングケアラー　・核家族化　・学歴　・障害　・国籍 ・制度に対しての無知　・移民　・10代での結婚、出産 ・多様性を受け入れない社会制度

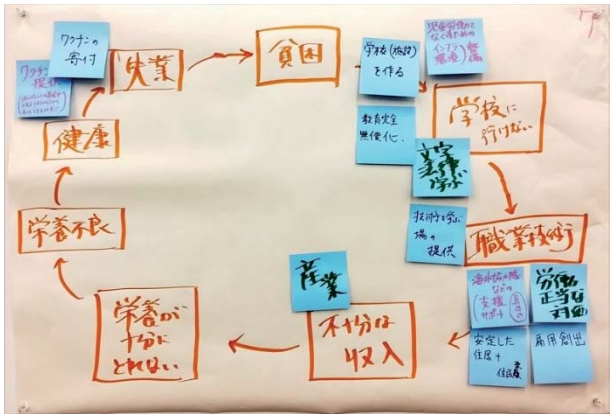
②「貧困の輪」から抜け出すために必要なもの

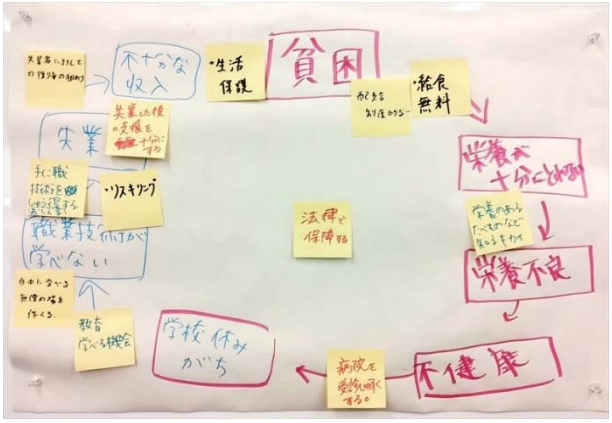
- 貧困の輪シートを用い、半模造紙に貧困の悪循環の輪を考えて書く。
- 「貧困とは何か、貧困の特徴（悪循環）」について理解した後、「悪循環から脱するために必要なもの」を付せん紙に記入し、貧困の輪を断ち切る部分に貼り回し読みで共有。

★貧困とは何か、貧困の特徴（悪循環）★

・世界の６人にひとりが極度の貧困状態で生活
・貧困の捉え方は大きくわけて「絶対的貧困」と「相対的貧困」の２つ
・貧困を測る代表的指標　①国際貧困ライン（世界銀行）　②多次元貧困指数（国連開発計画）

【「貧困の輪」と「悪循環を断ち切るために必要な物」成果例】





5. SDGs－続かない世界を続く世界にするための共通目標と現状－

- 各グループで「人類共通の課題」をブレインストーミングで出し、全体共有。
- SDGs に関する資料を読み、「何について書かれていたか」「資料からわかること」「最も印象に残ったこと」をグループで共有。

★「人類共通の課題」の意見★

・地球温暖化　・紛争、戦争　・教育　・食糧不足　・差別　・男女格差　・自然破壊　・宗教対立　・災害　・難民
・テロリズム　・資源の枯渇　・LGTBQ+への差別　・食の安全　・フェイクニュース　・砂漠化　・核兵器　・水
・経済格差　・プラごみ　・貧困　・SNS 中傷　・AI　・海洋汚染　・感染症　・宇宙ごみ　・気候変動　・競争社会

★ファシリテーターコメント★

知識だけではなく、スキルを身に付ける行動主義の教育が、国際理解教育／開発教育。人とかかわってみる、協力をしてみる、それらを通してスキルを身に付けながら進める参加型で行うのが特徴。また、「人類共通の課題」で出されたものすべてが、この教育がテーマとして扱うものになる。それらは「人権」と「環境」に大別される。

6. 豊かな社会にとって大切なこと　－「開発」の意味－

- 「豊かな社会にとって大切なこと」カードを用いたアクティビティ
- 「豊かな社会にとって大切なこと」シートから「自分にとって“豊かである”」ものを5つ選び、グループ内で共有。
- 視点を変え、以下の人にとって大切なものを想像し、カードを5つ選ぶ。
  （ア）日本の子どもたち　（イ）途上国の若者　（ウ）社会的に排除を受けがちな人
  （エ）自然や資源にとって　（オ）日本が豊かな社会であるため
- 「世界中の人たちが豊かであるためには、どのような状態が優先される必要がある？」か各自考える。

7. 1日目のふりかえり

- 「今日の感想」を一言ずつグループで共有。

★ファシリテーターコメント★

言語化することや、紙に書いて文字化するという作業は意識化を助ける。意識できないこと、覚えていられないことは行動に移すことはできない。学びをふりかえり、言語化や文字化をすることを繰り返し、意識化し行動につなげていくことが大切。

＜セッション3＞ わたし・あなた・みんなに関わる力　その１「セルフ・エスティーム」

8. オープニング　60 秒メッセージ「なぜここに？」→ペアで傾聴を心がけて聞き、40 秒でふり戻す。

9. 開発教育・国際理解教育とスキル・ビルディング

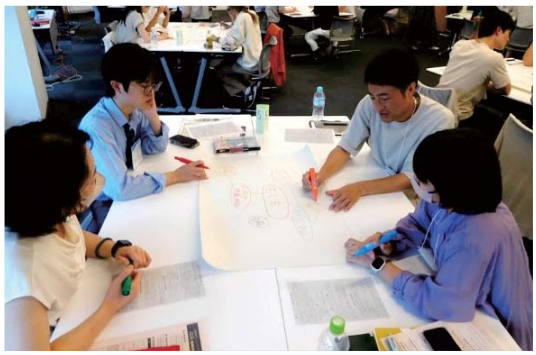
- 開発教育・国際理解教育において「押さえたい３つの領域と力」を確認
  ＝セルフ・エスティーム（自分を大切にする力）、コミュニケーション能力、参加・協力する力

★ファシリテーターコメント★

行動変容は、気づきから。他人事が自分ごとになるような内発的自己発見が大切。これまで考えたことがないことに出会ったときや、自分とは全く異なる意見に出会ったときに、人は気づきを得る。参加型学習はこの気づきを作り出す場になる。また、知識と気づき、スキルが行動変容につながる。この３つがバランスよく含まれているのが参加型学習の特徴。

10. 自立と共生の基盤となる力「セルフ・エスティーム」

（1）セルフ・エスティーム（SE）は何か、なぜ大切か

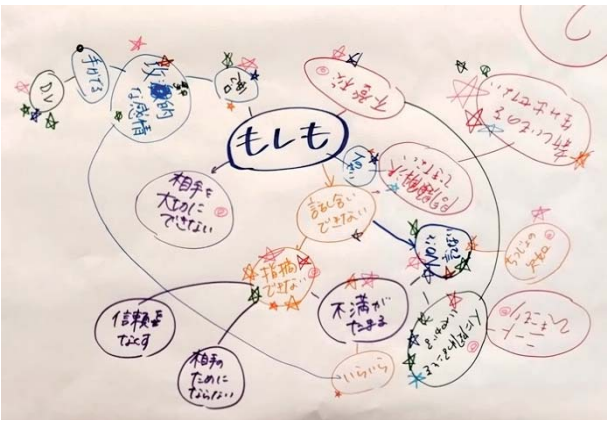


- 「もしも SE が低かったらどうなるか」を、派生図を使って考える。出された意見の中で、現実社会で起きていることをチェックする。
- 「SE を育てるもの／傷つけるもの」をグループで模造紙に対比表で書き出し、全体で共有。

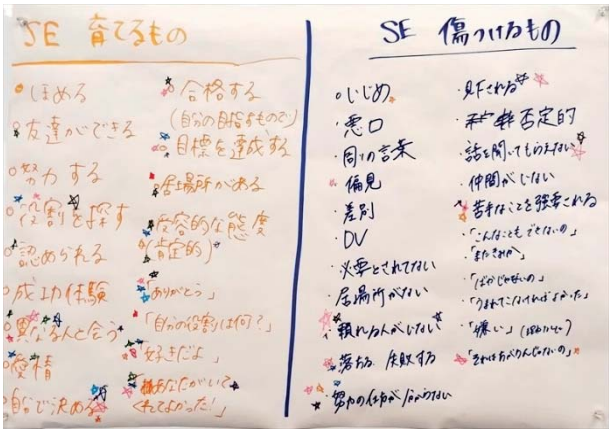
★「現実社会で起きていること」の意見★

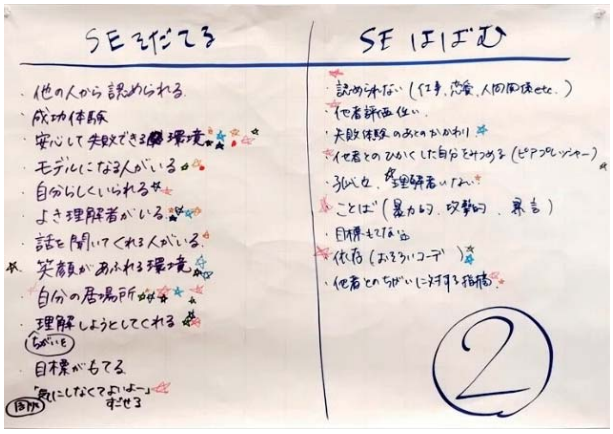
・自傷　・差別　・自暴自棄　・いじめ　・頑張りすぎる　・愛することを知らない　・結果主義
・投票率低い　・夢をもてない・他者と関わろうとしない　・東横キッズ　・うつ　・自死

【派生図「もしも SE が低かったら」】



【対比表「SE を育てるもの／傷つけるもの」成果例】

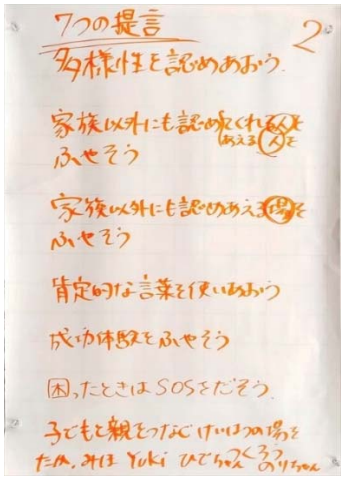


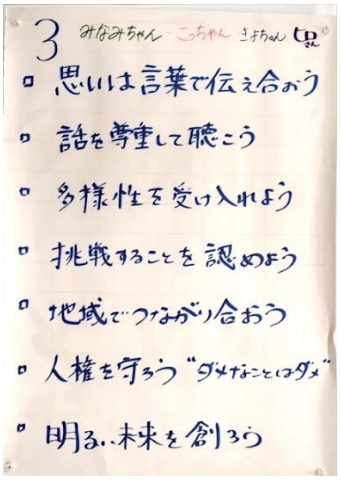


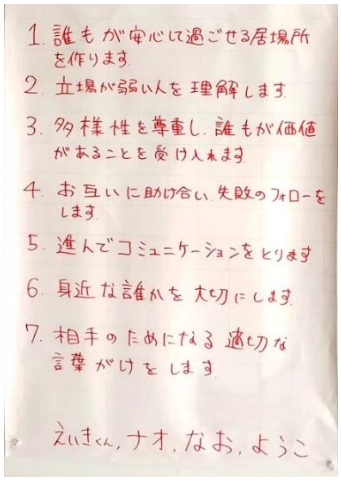
（2）私たちの社会と SE　～SE を育て合うために

- 資料「秋葉原通り魔事件と加藤被告（現死刑囚）の状況」を読んだうえで、SE を育て合う社会を創るために、役立つこと・できること・必要なもの「私たちからの提言7か条」をグループで模造紙にまとめ、発表共有。
- 「私を見つめる4つの窓」を書き出し、自分をふり返り、SE を育て合う社会のための手立てを考える。
  ⅰ「わたしは」で始まる自分に関する文章10個　　ⅱ今わたしの親しい10人の人たち
  ⅲ昨年はできなかったけど今年はできるようになったこと　ⅳ自分をほめてあげよう！（できるだけ多く）

【SE を育て合う社会を創るための「私たちからの提言7か条」成果例】







★ファシリテーターコメント★

ファシリテーターは先生ではなく、正解をもっているわけではない。答えというのは参加者の中にある。参加者が考えるための内容と流れをつくるのがファシリテーターの役割。

<セッション 4>開発教育・国際理解教育と Better Quality of Education＝よりよい質の教育

11. よりよい未来と開発教育・国際理解教育

- BQOE（Better Quality of Education）：
  1 人ひとりの人間の生きるということの質（QOL）がよくなれば、社会がよりよくなっていく。教育は 1 人ひとりをエンパワーメントし、教育によって私たちは共に地球に生きることを学ぶ。学びの質が上がり 1 人ひとりがエンパワーされ、QOL が上がり社会がよりよくなっていく。教育に関わる人たちが協力し、教育の質を上げていくことが BQOE。

★ファシリテーターコメント★

教育の使命は一人ひとりの可能性を最大限に引き出すこと。教育者は、一人ひとりが自分の持ち味と能力に気がついて、それを発揮しながら自分らしく生きるようになることを応援する。一人ひとりの QOL を高め、社会の質も高めていく。

12. 教育は一人ひとりをエンパワーする

（1）肯定的・受容的な社会vs否定的・排他的な社会ー人が最も学ぶのはー

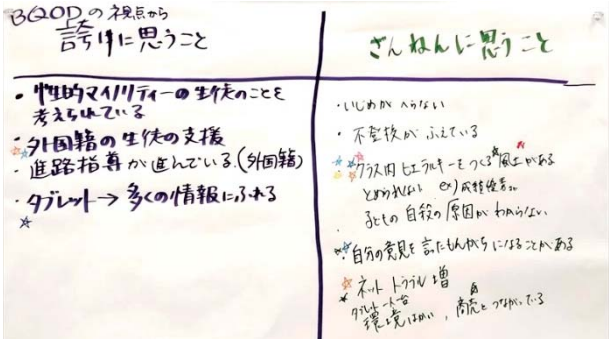
- グループで「肯定的・受容的な社会」、「否定的・排他的な社会」それぞれの派生図を描き、全体共有。グループで、作業を通して気づいたこと3つを文章化。
- 資料から「人が最も学ぶのは」どういう条件かを確認。

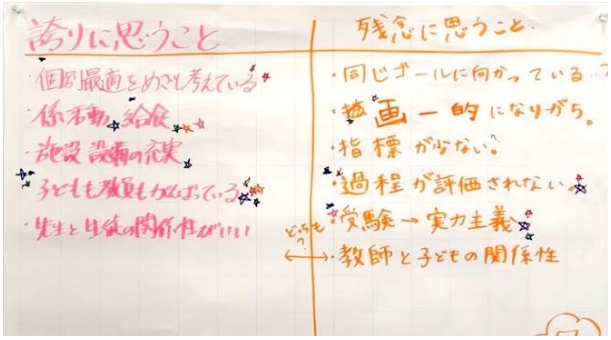
【派生図「肯定的・受容的な社会」／「否定的・排他的な社会」】

（2）今の教育　誇れるものと足りないもの

- BQOE の視点から対比表「今の教育で誇りに思うこと／残念・足りないもの」をグループで作成し、全体共有。

【対比表「今の教育の誇り／残念・足りないもの」】





（3）教育によって共に地球に生きることを学ぶー無力感を学ばせない BQOE のためにできることー

- 「BQOE の担い手としてわたしができること」５つを各自で書き出し、ふりかえりシートを記入し、全体共有。

★「BQOE の担い手としてわたしができること」★

・傾聴　・相手を認める言葉がけ　・“あなたを大切に思っている”を言葉と行動で伝える　・学び続ける
・考えをおしつけない・魅力ある人になる　・いろんなチャンスを提案できる　・正しく評価する
・できたこと、うれしいことを一緒に喜ぶ

以上

Ⅲ 開発教育指導者研修（実践編）第2回

「開発教育・国際理解教育にできること」

ー“参加型”で価値観を育てる・気づきを行動につなげるー

■ 開催概要

◆日時：2024 年 7 月 20 日（土）13:00～17:13、21 日（日） 10:00～15:17
◆場所： JICA 中部なごや地球ひろば 2 階 セミナールームA
◆参加者：［1 日目］受講者 31 名、NIED スタッフ 7 名、JICA スタッフ 2 名 合計 40 名
［2 日目］受講者 32 名、NIED スタッフ 7 名、JICA スタッフ 2 名 合計 41 名
◆ファシリテーター：（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子

■ 第2回ねらい

○ よりよい関係性を築くために不可欠なコミュニケーション・スキルとそのスキル・ビルディングについて学ぶ
○ 開発教育と SDGs の主なテーマである人権と環境と自分たちについて、参加型で学ぶ流れを体験する。
○ 何のための“参加型”であるかを体験的に確認し、人の行動変容を支える 3 要素について理解を深める。

■ プログラムの内容

＜セッション1＞ 共通基盤づくり

1. 開会 主催者あいさつ

2. はじめに

- 本研修の目的と概要説明、第 2 回のねらいの確認

3. アイスブレーキング＋第1回ふりかえり

- 「こんなわたし・これもわたし・これがわたし！」で自己紹介
- 第 1 回記録確認＋3 点コメント

＜セッション2＞ Let's Communicate!

4. ここにいる私たちから知り合おう！ ーコミュニケーションの 3 要素＝考える・伝える・聞くー

（1）カードで自己紹介

- 「コミュニケーション」の定義：コミュニケーションとは、情報（考え、気持ち、経験、知恵、、、）の伝達と共有のこと「考える」＝自分をふりかえる、「伝える」＝相手に心をひらく、「聞く」＝相手を受け入れる、の 3 要素からなる。
- お題が書かれたカードを 1 人 1 枚取り、カードのお題にそって 30 秒で自己紹介。カードの選び方（他の人が引いたカードから 1 枚、全員で同じカード）を変えて 5 ラウンド実施。

★ファシリテーターコメント★

コミュニケーションは、単なる伝達、共有だけではなくて、人と人とのよい信頼関係を築く時にも役立つ。自分のことをわかってもらい、相手のことを知り、協力をし合い、よりよい関係をつくるためにはコミュニケーションは不可欠。

5. いろんな聞き方・伝え方・関わり方

（1）なりきり名刺交換会

- 各自に配られた名刺の人物になりきり、ペアで自己紹介。名刺交換後、ペアを替え新たな人物になりきって自己紹介。
- 作業のふり返りを、個人でワークシートに記入し、グループで共有。

★ファシリテーターコメント★

単に参加して体験して「楽しかった」で終わるのは、参加型学習の本位ではない。参加型学習では、「体験する」→「ふりかえる」→「一般化する」→「現実の生活で応用する」という「経験学習の４段階」とすることが大切である。名刺交換会も体験後のふりかえりが大事。それぞれの体験を基にした気づきを共有し、人と対等に丁寧に関係性を築いていく方法を見つけ出していくことが、経験学習に繋がる。

（2）いろんな聞き方（無関心、否定的、上目線、乗っ取り、傾聴）

- NIED スタッフ２人による５つの聞き方（無関心、否定的、上目線、乗っ取り、傾聴）のロールプレイ実演のあと、話し手・聞き手の様子から気づいたことわかったことを、数人が全体発表。

★ロールプレイを見て気づいたこと・わかったこと★

・自分自身をふりかえって、同じような聞き方をしてしまっていることにドキリとした。
・聞き方によって表情や態度にも違いが現れていた。
・普段自分が関わる場で、傾聴の風土をつくれるといいとおもった。

（3）練習してみよう！　自分も相手も大切にするアサーティブなコミュニケーション

- コミュニケーションの3つのタイプ（攻撃型、受容型、自己表現型）と「わたしメッセージ」に沿って、ペアでわたしメッセージの練習。

＜セッション３＞「貧困」について学ぶ　ー格差の現状・格差の要因ー

6. 格差・不公平はどこから「コーヒーカップの向こう側」Ⅰ

① コーヒークイズをグループで協力して解く。
② コーヒーが消費者に届くまでの行程を考え、書き出す。
③ コーヒーの歴史を、資料をもとに国名・地域名とつなげて理解する。
④ 「アロマ村について」の資料を読み、“アロマ村のコーヒー農園”の設定を確認。
アロマ村は、コーヒー豆を買い付ける「カプチーノ社」が提示する様々な条件や提案に基づいて栽培を行う。栽培１年目～4年目で農園の収支がどのように変わっていくかをシミュレーションし、カプチーノ社の利益も計算する。シミュレーションを振り返り、感想を話し合い、全体で共有。

★アクティビティを通して気づいたこと・わかったこと★

・文字が読めない、契約の知識がない中で、契約を結ぶことの難しさと教育の必要性を感じた。
・市場価格と収入の不公平さ、「フェア」とはなにか考えた。
・教育と情報リテラシーの大切さを感じた。普段コーヒーが安い価格で飲めていることに、いろいろな背景があることがわかった。

<セッション４> 「貧困」のために学ぶ －格差の是正－

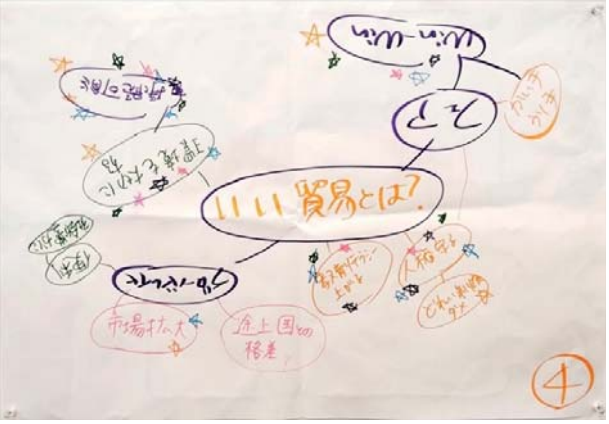
7. オープニング　①協力連想ゲーム、②参加者任せの自己紹介、③１日目のアクティビティを順番に発表

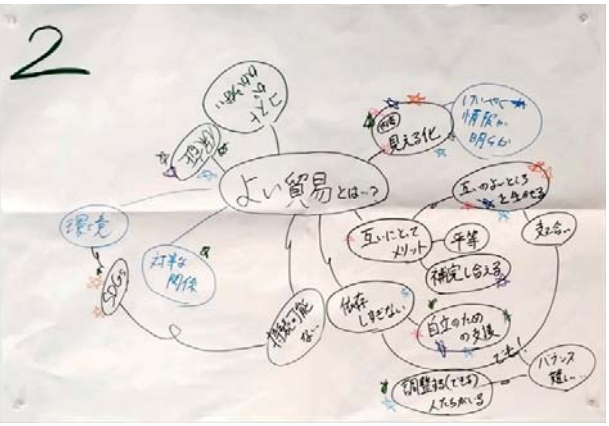
8. いい貿易って何だろう 格差是正を考える 「コーヒーカップの向こう側」Ⅱ

（１）いい貿易とは

- ブレスト関連図「いい貿易とは」を作成し、回し読みで共有。

【関連図「いい貿易とは」成果例】





（２）生産者にとって望ましい取引とは

- コーヒーの「生産者一家の待遇改善カード」資料には、とあるコーヒー生産者の状況と、それに対する4つの組織の「改善提案カード」（誘惑 A～D）が記載されている。
- この資料をもとに、生産者にとって望ましい取引とはどういうものか、どんな点に気をつけるとよいかを個人、グループ、全体で考える。

★消費者→生産者までの流れを考えるときどんな点に気をつけるといいか★

・妥当な最低保証があるかどうか　・契約条件で消費者生産者双方が納得できるか
・対等な労働の価値を考えること　・モノの生産過程に興味をもつ　・労働環境に配慮した企業の商品を選ぶ
・買うときには、生産者の顔が見えるものを選ぶ、必要な分だけを買う

<セッション５> 「環境」について学ぶ　－環境問題どんな問題？－

9. 生き物が生きる基盤である環境の今 －問題の現状と影響－

① 地球環境クイズ －環境問題とは－

- 環境問題に関する２種類のクイズを、ペアで解き、グループで情報共有。

② 環境データを読み解く －今何が問題か－

- 今何が問題かを資料を分担して読み解き、印象に残ったことなどをグループで共有。

★ファシリテーターコメント★

国際理解教育・開発教育は、徹底的な行動主義をとり、行動する人たちを増やすことを考えるもの。環境、人権、平和のために行動する人を育成していきたい、育てることが重要。環境も人権も平和も、１人１人の行動からしか社会の変化は生まれてこない。

＜セッション６ ＞「環境」のために学ぶ　－環境問題どんな問題？－

10. 問題が解決されないままの未来 と 問題を作り出している要因 －問題の影響と原因－

（1）問題解決されないままの未来を想像する

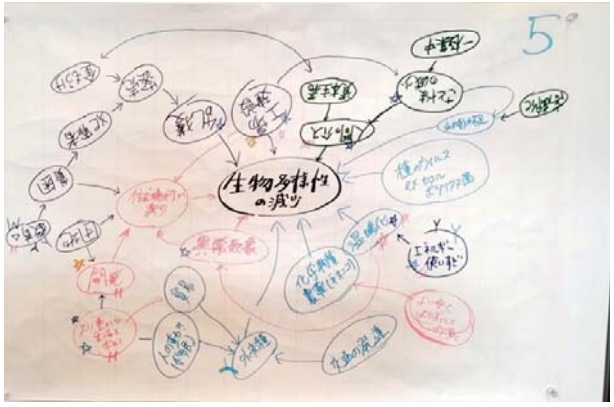
- 各グループに割り振られた環境問題について「問題が解決されないままの未来」を、派生図を用いて考えるアクティビティ。（地球温暖化／熱帯林の減少／土壌、水質、大気汚染／砂漠化／生物多様性の減少／水資源不足・枯渇ゴミの多様化とゴミ増加／有害廃棄物の越境移動）
- 個人で自分自身にも影響があるものをチェックする。

【派生図「問題解決されないままの未来」成果例】

（2）問題を作り出している原因を探る

- 問題の原因・背景を、因果関係図を用いて深掘りして考える。
- 個人で、自分自身も原因に関わっているものをチェックする。

【因果関係図「環境問題を作り出している原因」成果例】



Ⅱ．有限な地球の持続可能な使い方

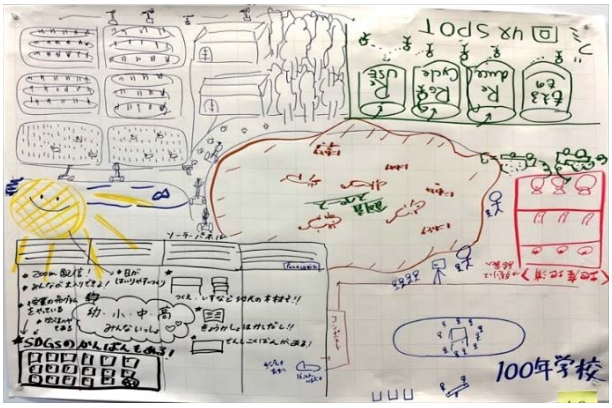
（1）持続可能な環境のための４原則 ―循環・生物多様性・資源の有限性・低炭素―

- 資料（有用な共有物「地球」の持続可能な使い方）を読む。

（2）持続可能なまちを作ろう！ ―デザイン・コンペー

- 持続可能な環境のための４原則（循環・多様性・有限性・低炭素）について、資料で理解した内容をふまえて持続可能な〇〇をデザインする。
- 60 秒でプレゼンし合い、重み付け投票でベストデザインを選ぶ。

【「持続可能な〇〇」成果例】



（3）行動変容の３要素 ―「知る・気づく・行動する」をつなぐ参加型―

- 資料（変化のための参加型-参加型の目的-）を読み、理解。

★ファシリテーターコメント★

絵を描くというのも参加型手法の１つ。絵を描くためには、そのテーマについて理解をしている必要がある。作業自体は、最初は拒否感があっても、結果多くの人が楽しめるのもポイント。

以上

Ⅳ 開発教育指導者研修（実践編）第3回

第3回「開発教育・国際理解教育の作り方・進め方」

ー参加型プログラムの作り方と学習者主体の場のデザインするー

■ 開催概要

◆日時：2024 年 8 月 24 日（土）13:00～17:10、25 日（日） 10:00～15:17
◆場所： JICA 中部なごや地球ひろば 2 階 セミナールームA
◆参加者：［1 日目］受講者 32 名、NIED スタッフ 7 名、JICA スタッフ 2 名 合計 41 名
［2 日目］受講者 34 名、NIED スタッフ 7 名、JICA スタッフ 2 名 合計 43 名
◆ファシリテーター：（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子

■ 第3回ねらい

〇わたし（自己）・あなた（他者）・みんな（社会）に関わる力の内、「合意形成・対立解決スキル」について学ぶ。
〇対話と協力、発散と収束を積み上げて目的を達成する、参加型プログラムの作り方と参加型手法を習熟する。
〇プログラム作りと模擬ファシリテーションを通して、開発教育実践と実践報告フォーラムのイメージを持つ。

■ プログラムの内容

＜セッションⅠ＞ 共通基盤づくり

1. 開会 主催者あいさつ

2. はじめに ①本研修の目的と概要説明、②第 3 回のねらいの確認

3. アイスブレーキング

① 絵カードで自己紹介
- 絵カードを選び、イラストにまつわる自己紹介。

② マインドセットリセット
- 名詞と修飾語を書いた紙をランダムに引き、絵を描き、お題が何か想像して当て合う。

★ファシリテーターコメント★

今まで自分が経験してきたことや、教育を受けてきた環境によって作られている無意識の自分の考え方の枠組みのことをマインドセットという。問題を作り出したマインドセットのままでは、問題を解決することは難しく、何かしら解決策を考えようとする時には、斬新なアイデアも必要になる、そんなことを体験するアイスブレイクがマインドセットリセット。

4. 第2回ふりかえり

- 第 2 回の記録を印象に残っていることに下線を引きながら読む→3 つを選び紹介し合う。

■ セッション2 わたし・あなた・みんなに関わる力 その３ 合意形成・対立解決スキル

5. 多様性理解・多様性受容 ―私たちの多様性と同一性―

（1）4つのコーナー（グループバージョン）

- 「正解のない問い」に対して、自分の考えに１番近いカード（はい／どちらかというとはい／いいえ／どちらかというといいえ）をグループで一斉に出し、理由を 20 秒ずつ語る。
  ⅰ猫が好き！　ⅱ自分の人生に満足している！
  ⅲ世の中で起きていることを知るには、テレビが１番だ！
  ⅳいじめはなくならない　ⅴ死刑制度には賛成だ
  ⅵ目玉焼きにはぜったいソースだ！
  ⅶ原子力発電推進には賛成だ
- グループで感想を共有し、作業を通してわかったこと3つを文章にまとめる。

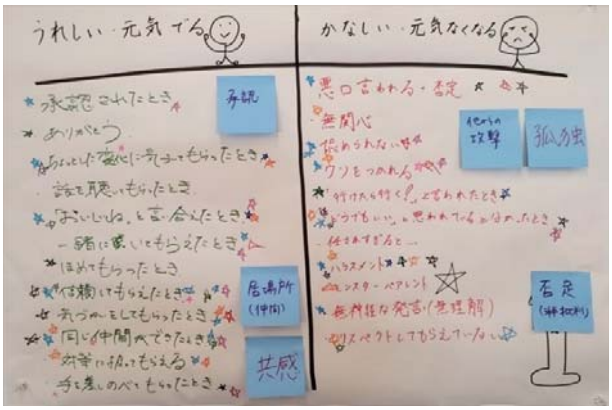
★この作業を通してわかったこと★

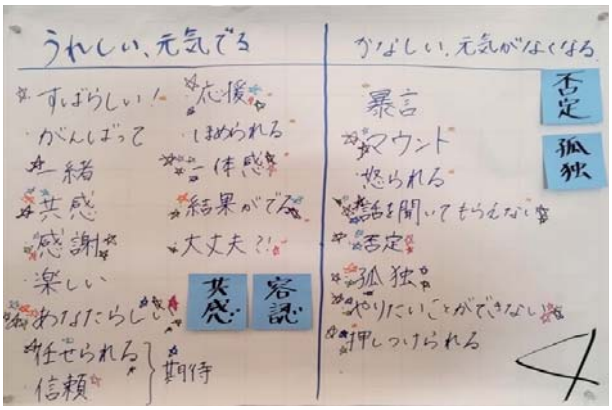
・いろいろな考えや価値観を知ることができ、新たな気づきがあった。
・出されたカード（答え）が違っても、理由を聞くと共通するところもあった。
・傾聴の雰囲気があるので、安心して自分の答えを出すことができた。
・始める前に「正解がない」と伝えられたことで、安心して自分の考えを言うことができた。

（2）言葉の宝箱・言葉のゴミ箱

- 他者からの言動をふりかえり、「嬉しい・元気がでる」／「悲しい・元気なくなる」言動を対比表に書き出す。
- それぞれに書き出された言動に共通する特徴を付せん紙に書き出し、回し読みで共有。

【「嬉しい・元気がでる／悲しい・元気なくなる 言動」成果例】





6. 対立は悪くない ―対立から学び・対立を越える―

① 対立の定義

- 「対立」と聞いて思い浮かぶことをグループで一言ずつ話す。以下の「対立」の定義と特徴を確認。

★対立の定義と特徴★

・定義 ： ２人またはそれ以上の人々の間で起こる口論または意見の不一致のこと
・特徴 ： どちらか一方でも「解決しよう…」と思わない限り、対立は感情を伴って激化する。

② 対立の６つの扱い方／建設的解決／要望と本心

- ペアで対立の扱い方６つと事例の組合せを考えたうえで「対立解決」について資料を読む。
- ペアで「テレビを取り合う双子」の事例についてのウィン・ウィン４分類表をつくる。
- 「本心と要望」を資料で確認し、対立の事例から本心と要望についてグループで考える。

③ トランセンド法 －みんなでバカンス－

- “みんなでバカンス”に行く設定で合意形成を図るアクティビティ。
- 個人で希望する行き先をA4用紙に書き出し、まずはお互いに難癖をつけ否定してみたあと、本心を共有する。
- トランセンド法（超越法）について資料で確認し、グループで１つの行き先を決める話し合いをする。
- 行き先の合意ができたグループが話し合いのプロセスを発表。

7. ふりかえりとお知らせ

- グループで１人代表者を決め、全体で今日の感想を共有。

★今日の感想★

・「対立は悪くない」ということが印象的。対立が起きた際に、納得してお互いが歩み寄れることを体験した。実際に学校でもできるようにしたい。
・話し合いのためには一人ひとりの主体性が大切で、子どもたちが自信をもって自分の意見を言えるような場を作っていきたいと感じた。
・学校で生徒同士の対立が起きた時、これまでは自分が介入していたが、本人たちが本心を語り、ウィン・ウィンな解決ができるようになっていくことの大切さを感じた。

■ セッション3　参加の満足感を作り出すモノ・人の主体性発揮に役立つコト

8. オープニング＋ネパール教師海外研修報告

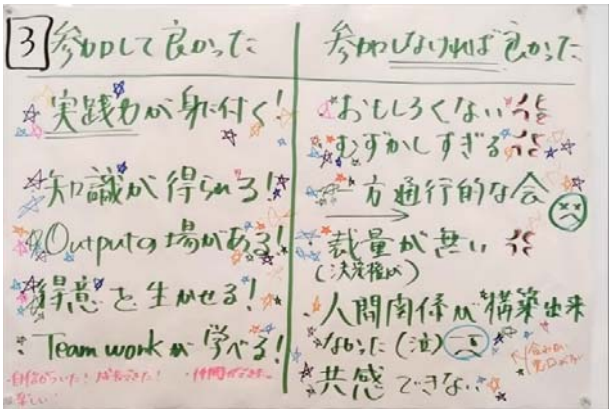
- ネパール教師海外研修に参加したメンバーによる研修報告
- 「おすすめの一品」をお題に一言自己紹介

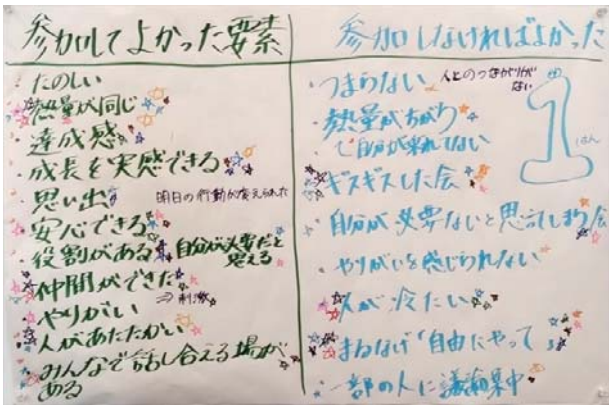
9. 参加してよかった／参加しなければよかった／主体性の発揮

① 参加と主体性の発揮

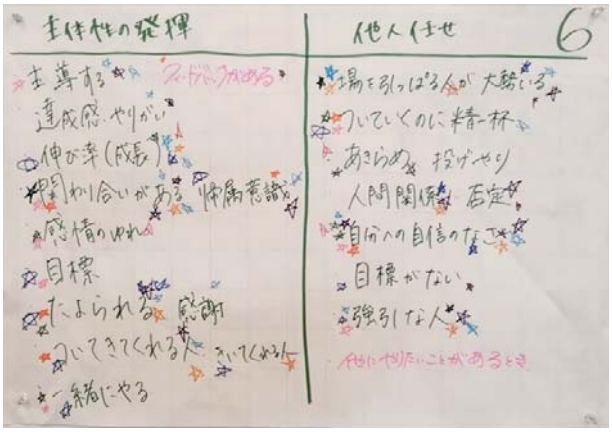
- これまでの人生をふりかえり、「参加してきたものと参加してよかったとおもう場の要素」、「主体性タイムライン」書き出す。
- グループで分担し、「参加してよかった／参加しなければよかった」「主体性の発揮／他人任せ、他人事」対比表をつくり、回し読みで共有（自分のグループで出ていなくて共感するものに★印／アイデアの追加）

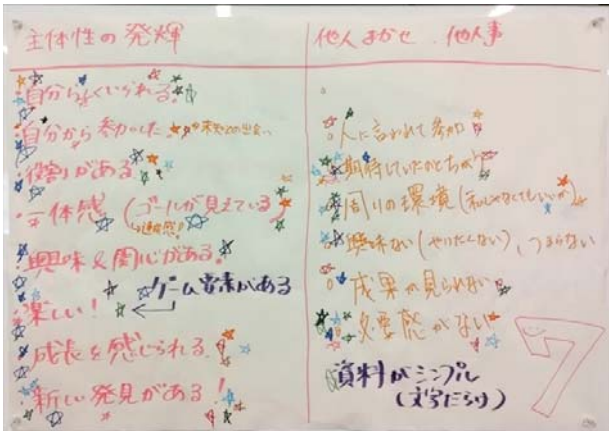
【「参加してよかった／参加しなければよかった」成果例】





【「主体性の発揮／他人任せ、他人事」成果例】





② ファシリテーターができること

- 参加者の参加の満足度を上げるためにファシリテーターができること3つ、参加者の主体性発揮を助けるためにファシリテーターとしてできること3つをそれぞれ書き出す。

★ファシリテーターができること★

参加者の参加の満足度を上げるためにできること

・目的を明確にする　・個人作業とグループ作業を組み合わせる　・活動のしやすい環境づくり
・楽しく学べる活動（ゲーム感覚）　・学んだことを役立てる場をつくる　・個人の尊重、否定されない
・１人ひとりのプロセスと成果を認める

参加者の主体性発揮を助けるためにできること

・１人ひとりに役割がある、任せる　・なぜそれをやるのか？必要感がもてる仕掛け　・ゴールを示す
・全員が参加できる、活躍できる　・新たな関係性、新たな学びがある　・協働することで解決できる課題の設定

★ファシリテーターコメント★

「ファシリテーターができること」を行動宣言として書き出した。参加型の場で出たアイデアをすべて持ちかえることは難しいが、行動宣言したことは覚えて帰ることができる。意識化することが大切で、そのための手法の１つ。自分の考えたことを文章化、言語化すること、またそれを他者に伝えるという作業を繰り返しながら他者と一緒に学び合い、意識化していく。

■ セッション4　参加者主体の場を作る －アクティブに学ぶための参加型手法－

10. 参加型手法習熟 －アクティビティとは何か／参加型手法の目的と種類－

- これまでの研修で体験した参加型手法をふりかえり確認する。
- 17の参加型手法を分担して、①どんな手法か、②どうやって使うのか、③どんなお題で使えるかを紹介し合う。

★参加型手法を使う理由★

・より多様な視点からクリエイティブに話し合うことが可能になる。
・多様な視点や考え方がある人どうしが、共通の枠組みで話し合うことができる。
・1つのテーマについてある枠組みに当てはめて分析することで、発見者同士共通理解を得られる。
・話し合いの内容が可視化され、共有しやすくなる。
・個人が考え、さらにグループで共に考えたプロセスが視覚的に残り、参加の満足感や達成感を得られる。
→“参加者が主人公になる”ということも、参加型手法を使うポイントである。

★ファシリテーターコメント★

多くの参加型手法を知っていることで、学び方を多様にすることができる。そのお題や場にあった効果的な手法を選び、組み合わせることで豊かな学びの場を作ることができる。

11. 5ステップで作る参加型プログラム

- 参加型学習のプログラムとアクティビティについてのミニレクチャー。
- プログラムの作り方5ステップに沿って、個人でプログラム作り。（ステップ4まで）

1）ステップ0：テーマを決める

2）ステップ1：テーマを理解する

・参加型手法「ブレインストーミング」を用いて、テーマからイメージすること、テーマに含まれること、テーマから広がることを書き出す。

3）ステップ2：自分の「ねがい」を見極める

・参加型手法「対比表」を用いて、参加者に「知ってほしいこと・気づいてほしいこと／考えてほしいこと・どうなってほしいのか（行動）」を書き出す。

4）ステップ3：「ねらい」を定める

・これから作るプログラムの目標、プログラムを通して参加者に提供したいことを明確にし、文章化する。
（例1）①＿＿＿＿＿について知り、＿＿＿＿＿に気づく。
②＿＿＿＿＿＿について考え、大切なことは何か共に確認する。
（例2）①まちの課題を出し合い、問題の原因を探る。
②望む町の姿を共有し、実現のための手立てを考える。

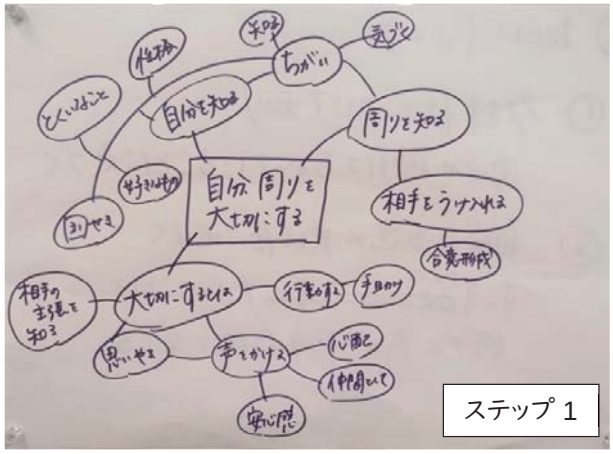
5）ステップ4：ストーリーラインを作る

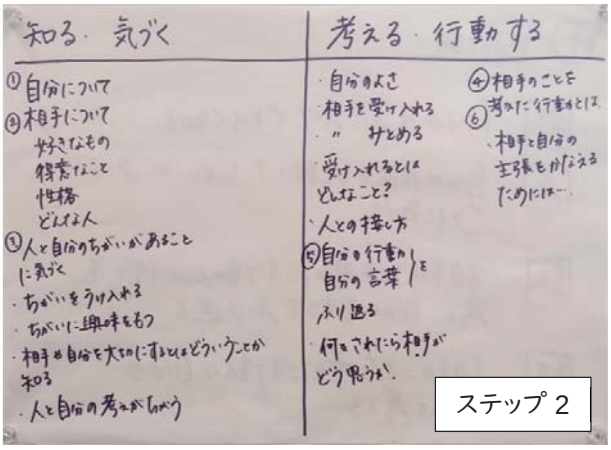
・ステップ2で作った対比表に書き出されたものに、参加者の意識の流れに沿う（考えやすい）ように、順番に番号を振る。
・資料の「4行詩」の例を参考にしながら、番号に従い、プログラムのねらい達成に向けた、起承転結（1文ずつ）のストーリーを作る。

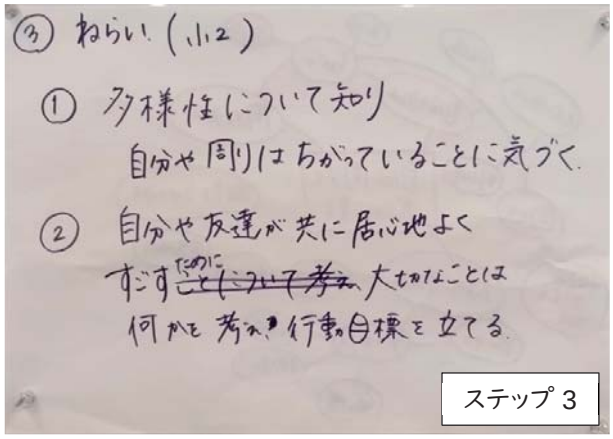
6）ステップ5：起承転結（4行詩）にアクティビティを当てはめる

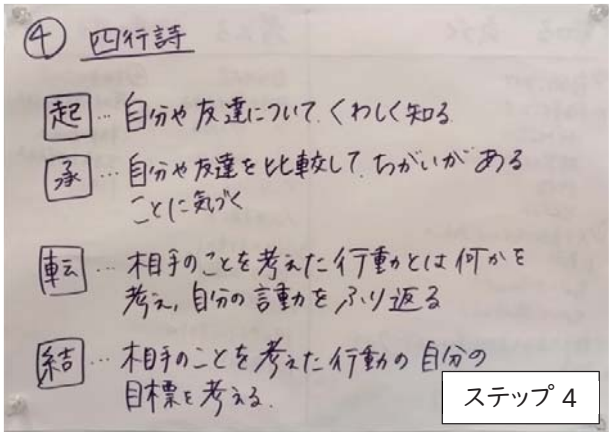
・ステップ 4 で考えたストーリーライン1文に1つずつ、アクティビティを当てはめて、プログラムを考える。

【「プログラムの作り方5ステップ」成果例】









■ セッション5　チームで作る参加型プログラム！ ＆ 模擬ファシリテーション

12. グループで選んだベース・プログラムをブラッシュアップ！

- テーマが似通う人たちとグループになり、グループで協力してプログラム案を作成する。

★参加型プログラムの評価の指標★

・ねらいを達成できるか
・参加者の主体性を引き出せるか
・参加者同士の関係性はよりよくなるか
・参加者のニーズに合っているか。興味関心を引き出せるか
・時間配分、手法は適切か
・おなか一杯、、、でももっと学びたいと次につながるか
・すでに知っていることだけではなく新たな発見気づきはあるか。新たな情報を持ち帰れるか
・楽しく学び、自分たちで成し遂げた！という満足感、効力感を得られるか

13. 8 分間プレゼン（6 分説明+6 分実演）+2 分提案記入 × 7 グループ

- グループごとに、プログラム概要を発表し、一部を実際にデモンストレーションする。
- 発表を受けて、よかったところとよりよくするための提案をし合う。

【 プログラムのねらいと展開 】

① 十人？色

ねらい	・人と人との違いに気づき、共に生きるために大切なことを考える	展開	1）人と人との違いに気づく 2）違うことってイイネ！ 3）違いを認められないと起こること 4）みんなで考えよう！共に生きること

② ゴミの向こう側

ねらい	・生活の中からどんなゴミが出されているのか、どんな問題につながっているのかを知る ・ゴミを減らすための行動について考える	展開	1）自分たちの生活から、どんなゴミが出るか？ 2）何でたくさんゴミが出る？ 3）もしも、これからもゴミが増え続けたら…？ 4）自分たちにできること

③ 過疎地域を活カソう！

ねらい	・過疎地域の現状と課題について知り、空き地の利用の仕方について提案する ・課題に対するジレンマを認識し、その上で共生の在り方を考える	展開	1）過疎地域の現状と課題を知る 2）空き地の利用の仕方について提案する 3）ジレンマカードを渡して住民の望み・悩みを知って共有 4）空き地の利用の仕方について再提案する

④ わたしもあなたもみ～んな大切♡

ねらい	・多様性について知り、自分や周りは違っていることに気づく ・自分や友達が共に居心地よく過ごすために大切なことは何かを考え行動目標を立てる	展開	1）自分のすきなことってなあに？ 2）セルフエスティームを高めよう 3）みんなちがってみんないい 4）自分や友達が共に心地よく過ごすためにできることって何だろう？

⑤ 真の Japan ホスピタリティを身に付ける

ねらい	・日本に暮らす外国の人が抱える課題に気づく ・共に生きていけるような社会実現のための手立てを考える	展開	1）外国の人（旅行者／労働者）から見た日本のびっくりランキング Quiz 2）実際に日本に住む外国の人が抱える課題 3）実際の日本社会の現状 4）考えてみよう！本当に自分にできる Small Action!

⑥ 君と僕の壁を壊せ！

ねらい	・言葉の壁に気づく ・コミュニケーションの仕方について考える	展開	1）コミュニケーションの困りごとを話す 2）外国人の言葉の壁に気づく 3）何が壁を作っているのかを考える 4）どのように変えていくとよいかを考える

⑦ 難民のいない地球

ねらい	・難民について知り、難民の人たちが抱えている課題について知る ・かけがえのないものを知り、奪われたらどうなるかについて考える	展開	1）自分にとって大切なものをふりかえる 2）難民の人たちの背景を知る 3）このままだとどういう世界になっていってしまうのか考える 4）難民が生み出されない世界ってどんな世界かを考える

■ セッション６　実践報告フォーラムに向けた確認・準備

14. フォーラムで提供する実践体験プログラムの選定と有志チームの結成

- フォーラムで提供するといいと思うプログラムに投票。
- 選出されたプログラムをフォーラムで提供する有志を募る。

15. フォーラムまでのスケジュールとフォーラムの概要の説明

- 中間会合及び実践報告フォーラムの内容と準備について説明。

16. ふりかえり

- グループで、第３回の感想を共有。

以上

V 中間会合

■ 開催概要

◆ 日 時：第 1 回 2024 年 11 月 25 日 (土)／第 2 回 2024 年 1 月 20 日 (土)
　　実践体験ワークショップ検討会 13:00〜17:00、実践者フォローアップの会 16:00〜17:00
◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
◆ 参加者数：実践体験ワークショップ検討会
　　［第 1 回］受講者 17 名、JICA 1 名、NIED 4 名 合計 22 名
　　［第 2 回］受講者 19 名、JICA 1 名、NIED 5 名 合計 25 名
　　実践者フォローアップの会
　　［第 1 回］受講者 7 名、JICA 1 名、NIED 4 名 合計 12 名
　　［第 2 回］受講者 5 名、JICA 1 名、NIED 5 名 合計 11 名
◆ ファシリテーター：（特活）NIED・国際理解教育センター伊沢令子

■ ねらい

① 実践報告フォーラム 2025における受講者有志による実践体験ワークショップの実施が円滑に進むようプログラム作成支援、当日の準備支援を行う。
② 受講者の各現場での実践状況を共有し、助言する。

■ プログラムの内容

＜セッション1＞ 実践体験ワークショップ検討会

1. はじめに 検討会の進め方の説明、アイスブレーキング

2. 各グループでの検討

- ベースとなるワークショッププログラム（中間会合①：実践編第3回で作成したもの、中間会合②：中間会合①で作成したもの）についてグループで話し合い、内容をブラッシュアップ、役割分担、配付教材を決定。

3. 全体発表・より良くするための提案、再検討

- 検討結果をまとめ、全体で発表。提案などを受けて、再検討。

＜セッション2＞ 実践者フォローアップの会

- 個人の実践について、フォローアップを希望する受講者に対して、NIED スタッフが個別に相談に応じた。

以上

Ⅵ　実践報告シート

■ 実践報告シート一覧

No.	名前	対　象	時間数	テーマ	タイトル
01	市原 健　K	小学校1年生（30名）	11	国際理解	せかいの子どもたちとなかよくなろう！
02	丹羽 真琴	小学校1年生（30名）	10	共生・多様性・コミュニケーション	わたしも　あなたも　み～んなたいせつ！
03	松本 双葉	小学校1年生（35名）	5	セルフエスティーム	自分の個性を知って、クラスの為になる「ヒーロー活動」をしよう
04	岩田 周子	小学校2年生（25名）	6	人権・コミュニケーション	あなたも大切　私も大切　みーんな大切
05	掛井 遥奈　K	小学校3年生（31名）	8	多文化共生・人権・平和	みんなの地球、みんなの東部小、みんなの３の２♡
06	米山 直希	小学校4年生（30名）	2	地域づくり・過疎	日本の田舎の将来を想像しよう
07	伊藤 南緒	小学校5年生（28名）	12	環境・国際理解・SDGs	わたしたちにできるSDGｓ
08	道野 大和　K	小学校5年生（71名）	12	国際理解・人権・貧困・豊かさ	ネパールから世界を知る
09	丹羽 宏美	小学校5年生（29名）	2	共生・男女平等	ちがいを越える・共に生きる
10	木村 ひかる	小学校6年生（502名/4回）	2	安心できる居場所	だれもが安心できる居場所について考えてみよう
11	前田 幸代	小学校6年生（27名）	7	人権・共生・コミュニケーション	共に生きる社会～知る・気づく・行動する
12	坂田 英香　K	小学校6年生（30名）	8	キャリア（自己理解・他者理解）	世界のWell―being　自分のWell―being
13	髙井 季代子	小学校6年生（70名）	10	環境	Let's Save the Animals ～プラスチックゴミから生き物を守ろう～
14	野田 琴乃	中学校1年生（31名×3）	2	人権（多様性・自己肯定感）・コミュニケーション	普通ってなに？みんなが幸せに過ごすには
15	野村 直孝	中学校1年生（35名）	6	貧困・環境・教育	距離は遠く、心は近く～アフリカの方とつながろう～
16	室田 大介	中学校1年（34名）	7	人権	Nothing about us without us! （障がいがある人も障がいがない人も・・・）
17	山田 拓弥　K	中学校1年生（149名）	10	国際理解・SDGs・キャリア	SDGs×キャリア教育 ～「より良い未来」をみんなで作ろう～
18	渡邊 幸介	中学校1・2年生（科学部14人）	4	人権・貧困	貧困はただの言葉じゃない　現実の壁を乗り越えたい
19	木村 凌太	中学校2年生（33名）	3	共生・コミュニケーション	みんなでつくろう！学級をよりよくしようプロジェクト
20	添田 りのん	中学校2年生（33名）	6	コミュニケーション・共生	○○とわたし ～好きな自分になるために～
21	長澤 佑亮　K	中学校2年生（126名）	9	多文化共生・国際理解・地域の在り方	世界の架け橋プロジェクト ～共に生き、共に乗り越える～
22	大崎 誠	中学校特別支援学級 1～3年生（13名）	2	貧困	コーヒーカップの向こう側
23	出村 寛美	中学校1・3年生（240名）	6	持続可能な衣生活（人権・環境）	一枚の服とつながる～私と誰かと地球～
24	東谷 亜希子	高校1年生（30名）	6	ファストファッション 人権・環境	ファストファッションの裏側に目を向けてみよう
25	宮本 貴文	高校1年生（19名） 国際分野進学希望者	4.5	多文化共生・キャリア・コミュニケーション	あなたが変わると世界が変わる？
26	村井 美穂	高校1年生（40名）	2.5	国際理解・消費行動	フェルトの動物たちはどこからやってきたの？
27	稲中 優子	高校2年生（276名）	6	貧困・難民・人権	Crossing the Border （どんな垣根も飛び越えていこう！難民の背景を知ろう！）
28	中島 浩平　K	高校2年生（39名）	6	人権・共生・コミュニケーション	New Encounter：Promoting Acceptance & Learning
29	久保田 蒼	大学2～4年生（30名）	1.5	人権・平和・教育	身近な人権について触れてみよう！
30	松田　翼	中学生～社会人	1.5	人権・共生・貧困・経済格差・平和	ゲームで学ぶ！労働者の権利と技能実習生

凡例：「K」…教師海外研修（ネパール）受講者

せかいの子どもたちとなかよくなろう！

01

所 属	愛知県長久手市立東小学校	実践者	市原 健
対 象	小学校１年生（３０名）	実践日	2024 年 10 月～2025 年 1 月
実践教科	学級活動・道徳	時間数	１１時間
テーマ	国際理解		
ねらい	・ ネパールをはじめとした他国の人々に関心をもち、進んで関わりたいという思いをもつ。 ・ 他者と関わるうえで大切なことを考え、実際にネパールの子どもたちと関わりをもつ。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1 2・3	**◆ 他国や、他国の人々に関心をもつきっかけづくり ◆** ① 世界の国名アイウエオ 【アイスブレーク】 ② 道徳教材「せかいのこどもたち」で、6枚の写真をもとに他国の子どもたちの生活に関心をもち、登場する子どもたちと一緒にしたいことを考える。 【フォトランゲージ】【ブレーンストーミング】 ③ 実物・動画・写真・クイズでネパール紹介 【フォトランゲージ】	・ 光村図書「道徳1」
4～7	**◆ 疑似体験で、他国の人々を身近に感じ、関わりたいという思いをもつ ◆** ① 世界各国に住む4人の子どもの写真資料の中で「いいね！」と思うことに♡を付けるとともに、その子に「言いたい」・「聞きたい」ことを書き込む。 【フォトランゲージ】 ② 全体で共有し、共感できる書き込みに◎を付ける。【ギャラリー方式】	・ 岩崎書店「世界の子どもたち」2018 年 ・ 偕成社「世界のともだち 33 オランダ サシャの笑顔はチューリップ」2016 年
8 9 10 11	**◆ 世界とつながる準備:「せかいの子どもたちとなかよくなろう！」 ◆** ① 「もしも4人が東小に引っ越して来たら」自分がどんな気持ちになるか、また、4人はどんな気持ちなのかを想像したうえで、「なかよくなるためにたいせつなこと」というテーマでアイデアを出し合う。 【ブレーンストーミング】 ② ネパールの子どもたちとオンラインで交流することを知ったうえで、①で出したアイデアの中から交流内容を決定する。 ③ オンライン交流の準備をする。 **◆ 世界とつながる:「ネパールのみんな、ナマステ！」 ◆** ① ネパールの現地校の子どもたちとオンラインで交流する。 **◆ 振り返り ◆** ① 活動を通して感じたことを共有する。 ② ネパールの子どもたちに向けてメッセージを書く。	・ 決定した交流内容 **①ネパール語で自己紹介【笑顔で挨拶名前好きなこと】** **②日本の遊び紹介【けん玉・コマ・じゃんけん】** **③じゃんけんで一緒に遊ぶ** **④質問・感想タイム**

成 果	開発教育で重視されている「行動につなげる」ことを目指した。実践を通して世界の子どもたちと「仲良くなりたい！」「友達になりたい！」という意見が多く出て、その思いを後半の実践に生かすことができた。ネパールの子どもたちとのオンライン交流では、児童が考えた「なかよくなるためにたいせつなこと」をもとに、児童主体で交流内容を考えて準備を進め、当日も充実した時間を過ごすことができた。
課 題	多くの小学1年生は、他国に対する偏見がない。こうした時期に世界の人々とつながるポジティブな体験をすることは、児童の国際理解への向き合い方をより良くするきっかけになると思うので今後も続けたい。
備 考	ネパール現地校とのオンライン交流は、現地で活躍する団体（e-Education）のシェルパ絢子さんのご協力により実現した。

わたしも　あなたも　み～んなたいせつ！

02

所 属	愛知県春日井市立高座小学校	実践者	丹羽　真琴
対 象	小学校１年生（３０名）	実践日	2024 年 11 月～ 1 月
実践教科	（学級活動・道徳・音楽）	時間数	１０時間
テーマ	共生、多様性、コミュニケーション		
ねらい	・みんなそれぞれちがうところがあるけれど、わたしもあなたも大切な存在であることに気づく。 ・いろんなみんなが集まった世界で、みんなが笑顔で過ごすために自分にできることを考える。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**世界に出会う！** ・アイテム紹介　①名札　②テーマソング『小さな世界』 ・世界の子どもたちと日本の子どもたちの似ているところ・ちがうところを考える【対比表（全体で）】	・名札、歌詞カード **・世界とであうえほん、はじめてのせかいちずえほん**、道徳の教科書、NHK for school
2・3	**こんな世界になったらいいな** ・『こんな世界になったらいいな』を考え、付箋に書く【ブレーンストーミング】 ・いいな！なるほど！と思う意見に◇を書く【回し読み】	・A3用紙、付箋、クーピー
4	**わたしに出会う！あなたに出会う！** ・4つのコーナー【アイスブレイク】 ・『わたしのカタチづくり』を行い、自分のカタチとあなたのカタチを比べる	・ワークシート
5	**けんか（対立）について考えよう** ・あなたはどっち？①【アイスブレイク】 ・けんかってどんなイメージ？【ブレーンストーミング（全体で）】 ・絵本を通して、登場人物の気持ちを考える ・けんかのメリット、デメリットを考える【対比表（全体で）】	**・ごめんね、ともだち**
6	**けんかになったら、どうしたらいい？** ・あなたはどっち？②【アイスブレイク】 ・オリジナルキャラクターを使って、けんかになったらどうやって解決していくべきかを考える ・わたしメッセージで伝える練習をする	・ワークシート
7・8	**いざ、実践！子どもも大人もみんなハッピーになれる振り付けをつくろう** ・話し合い方に気をつけながら、『小さな世界』の振り付けを作る	
9	**わたしにできること①　これからどんな言葉をつかいたい？** ・『ふわふわことば　ちくちくことば』について考える【ブレーンストーミング】 ・いいね！と思う、ふわふわことばに◇を書く【回し読み】 ・これから自分が使いたい言葉を3つ発表する	**・ふわふわとちくちく**、4 分の 1 模造紙、付箋、クーピー、ワークシート
10	**わたしにできること②　みんなが笑顔で過ごすためにがんばりたいこと** ・これまでの授業について振り返り、みんなが笑顔ですごすために自分にできることを考え、お互いの行動宣言にエールを送り合う	・ワークシート **※太字は絵本**

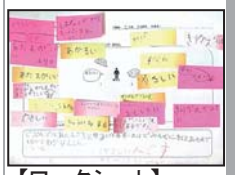
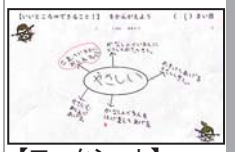
成 果	自分のカタチづくりで、みんなのこころがそれぞれ違うことに気づいたことで、けんかが起こったときにどうしたらいいのかよく考えることができた。「わたしメッセージ」や「ふわふわことば」など、参加型の学習を通して、これから自分たちにできることを積極的に考えることができた。
課 題	1年生でもできるような活動を考えたが、1 つ 1 つの活動に時間がかかり、計画通りに進めることができなかったため、活動を絞る必要があると感じた。 来年度は、年度当初に計画を立てて学年全体で取り組んでいきたい。
備 考	・他学年にも他テーマで実践を行った。授業を公開し、他の先生方に見に来ていただいた。 ・授業参観に 9 時間目の授業を行った。授業の最後には、7・8時間目に作った振り付けを発表した。

自分の個性を知って、クラスの為になる「ヒーロー活動」をしよう

03

所 属	静岡県菊川立六郷小学校	**実践者**	**松本 双葉**
対 象	小学校１年生（３５名）	**実践日**	2024 年 １２月～１月
実践教科	学級活動・道徳	**時間数**	５時間
テーマ	セルフエスティーム		
ねらい	・自分の個性（いい所も苦手な所も）を知る。 ・学級の為になる自分の個性の活かし方を知り、選び、実践することで自信がもてるようになる。 ・自分の良さも友達の良さも知り、自分も相手も大切にしようとする。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**「自分のいいところを知ろう」** ・自分のいいところを自分で書く。 ・友達から自分のいいところが書かれた付箋をもらう。（黄色）	・アンケート実施
2	**「自分のいいところを知ろう～普段あまり話をしない友達からも～」** ・普段あまり話をしない友達から、自分のいいところが書かれた付箋をもらう。（赤色） ・自分、友達、友達（普段あまり話をしない）の考えを比べる。 ・近い内容が書かれた付箋は近くにまとめる。**【KJ 法】** ・「わたしは〇〇な人です。」と自分の言葉でまとめる。	 【ワークシート】 ・アンケート実施
3	**「自分の苦手を変身させよう」** ・自分の苦手を書き出す。 ・自分の苦手（個性のネガティブな面）をポジティブに変換させる。**【リフレーミング】**	・ヒントカード「https://www.kita9.ed.jp/koike-s/center/rif/rif2.pdf」を使用
4	**「いいところ⇒できること！」** ・1・2回目で使用したいいところを集めたワークシートを見返し、自分の使いたい個性を選ぶ。 ・自分の使いたい個性から、クラスの為にできる活動を考える。**【派生図】** ・どの活動をしてもらったら嬉しいかを伝え合い〇印をつける。 ・自分がクラスのために行いたい活動を決める。【行動宣言】	 【ワークシート】
5	**「ヒーロー活動免許証を発行しよう！」** ・色々な先生のヒーロー活動免許証を見て、書き方を知る。 ・クラスの為に使いたい個性と、その個性を使った活動を自分の言葉で免許証に書く。	 【ヒーロー活動免許証（6色から選ぶ）】 ・アンケート実施

成 果	・自分にはいいところが沢山ないと思っていた児童が、沢山あると思えた。 ・自分だけではなく、友達にもいいところが沢山あると知れた。 ・誰かの為になる行動をし始める児童がいた。
課 題	・発達段階に適した教材・支援・時間配分 ・このプログラム後の、ヒーロー活動の継続的な見取り、振り返り
備 考	・日本語が分からない外国人児童2人には、個別での説明が必要だったが、日本人児童が外国籍児童の良さを認め、個性からできることを一緒に考えてくれる様子も見られた。

あなたも大切　私も大切　みーんな大切

04

所 属	名古屋市立丸の内小学校	実践者	岩田　周子
対 象	小学校２年生（２５名）	実践日	2024 年 12 月～１月
実践教科	学級活動・生活科	時間数	６時間
テーマ	人権・コミュニケーション		
ねらい	・ 自分と友だちのよさや違いを肯定的に受け止め、認め合うことができる。 ・ 友達のことを知ることができる。 ・ よりよい学級のために自分にできることを考えたり、友達と協力したりする楽しさを知る。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**＜自分についてみつめよう＞** できるようになったよ！こんなこと、あんなこと！ ・ 名刺で自己紹介【アイスブレイク】★ 「すきなもの」「今はまっているもの」など4つの質問に答え、それを班の中で紹介する。 ・ 自分が2年生になってできるようになったことを、思いつくだけ書き出す。書いたものを班で紹介し合う。	★…NIED・国際理解教育センター「参加型アクティビティ集コミュニケーション編」より ◆…奈良県立教育研究所HPより
2	自分の生い立ちをふりかえろう ・ おなじところ・ちがうところ【ブレーンストーミング】★ 班の4人（もしくは5人）の相違点・共通点を挙げる。 ・ 自分の保護者にインタビューをして、自分の今までを振り返りまとめる。	
	＜友達のことを知ろう＞	
3	わたしのカタチ 10個の質問に「はい」「どちらかというとはい」「どちらかというといいえ」「いいえ」のどれかを選び、レーダーチャートの形にしていく。できた形を班で交流する。	
4	7つのひみつ◆ 7つの質問にそれぞれが答える（ワークシートに記入） 教師が全体の前で質問と回答を「私の好きなものは〇〇です」という形で話し、答えが誰なのかを当てる。	
5	「探偵きらっとさん」 誰を見つめるのかは 1 週間秘密にして友達のよいところを探す。1 週間たったときにその週に見つけた友達のがんばっていたところや素敵なところを手紙に書いて渡す。	
	＜学級のためにできることを考えよう＞	
6	学級目標を達成しよう！【行動宣言】 学級目標を達成するために、今足りないことは何かを考える。その後今の自分にできることは何かを考え、行動目標を立てる。	

成 果	・友達のよさや自分との違いを認め合うことで友達のことを知ることができた。また、よさや友達を認める内容が外面的な内容から内面的な内容へと変化していった。自分と友達のことを比べ「同じところや違うところが様々ある」という気付きをもち、積極的にかかわろうとする姿が見られた。
課 題	・友達との関わりは増えてきているが、協力するよさを感じるまでには至っていない。友達と協力するよさを感じられるような活動を繰り返し行っていく必要がある。また、自分が認められていると感じることがそれぞれ違うので、認められていると感じられる方法を考えていきたい。
備 考	・常時活動として、毎週金曜日に「きらっとさんを見付けよう」を行い、よさを友達に伝えている。 ・定期的に協力ゲームを行うことで、友達と協力する楽しさや大切さが少しずつ伝わっているように感じる。

みんなの地球、みんなの東部小、みんなの3の2♡

05

所 属	静岡県磐田立東部小学校	実践者	掛井 遥奈
対 象	小学校３年生（３１名）	実践日	2024 年 １１月～１２月
実践教科	学級活動	時間数	８時間
テーマ	多文化共生、人権、平和		
ねらい	・ネパールやブラジルのよさ（日本と同じ or 違い）を知り、世界の面白さに気付く。 ・自分と他者の違いについて考え、それぞれのよさを力にするために大切なことを確認する。 ・多様な生き方があることを知り、だれもが過ごしやすい学級にするためにできることを考える。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	「ナマステ！ネパール！」 ・ネパールで撮ってきた写真や動画を見て、ネパールはどんな国かをグループで考える。【ブレーンストーミング】 ・写真や動画を見て、ネパールの暮らしや文化について知る。【クイズ】	・ネパールの写真や動画（パワポ） ・ネパール BOX（JICA）
2	「もっと知りたい、いろいろな国（ブラジル、日本）」 ・ブラジルの写真を見て、暮らしや文化について知る。【クイズ】 ・「日本といえば…」思いつくことは何かグループで意見を出し合う。	・ブラジルの写真（ブラジル国籍の児童と保護者に依頼）
3	「みんなちがって、みんないい」 ・3 つの国のそれぞれのよさについてグループで話し合う。【対比表】 ・もしみんなが同じだったらどうなるか、グループで話し合う。【派生図】	
4	「いろいろな生き方」 ・ベジタリアンマークについて知る。【クイズ】 ・いろいろな生き方があることを知り、身の回りで困ることがないか考える。	・ベジタリアンマークのついた食品 ・日本の食品やメニューの写真
5	「はるな先生のネパール日記　～みんなはどう感じる？～」 ・ネパールでの出来事を共有し、その出来事の前と後で自分の気持ちがどう変化するか考える。【ブレーンストーミング】	・ネパール日記（オリジナル）
6	「みんなで生きよう！同じ場所で」 ・今までの学習を振り返り、みんなが過ごしやすい学校や学級にするために今の課題とどうなったらいいかをグループで考える。【派生図】	
8	「みんなの3の2に！」 ・みんなが過ごしやすい 3 の 2 にするために自分にできることを考える。 ・その中から自分が今日から実践することを決める。【行動宣言】	

成 果	外国籍児童が多い学校のため、児童の中で見えない壁があるように感じていた。しかし、この実践を行っていく中で、同じ日本、同じ学級にいる友達として関わり合おうとする姿が見られ始めた。また、それ以外でも相手を否定しないこと、相手の声を聞くことを意識し始めている様子もあり、とても嬉しく思っている。
課 題	実践を行う中で、多くの児童が「ネパールの子と友達になりたい！」「ネパールのことをもっと教えてほしい！」という思いを口にしていた。実際にネパールの子どもたちとつながれる機会を設け、生きている国は違っても同じ地球に生きる友達を見つけるきっかけづくりができるとよかったと思う。
備 考	ブラジル国籍の児童や保護者の協力のおかげで、世界から見た日本の視点を得ることができた。

日本の田舎の将来を想像しよう

06

所 属	浜松市立赤佐小学校	実践者	米山　直希
対 象	小学校 4 年生（30 名）	実践日	2025 年 1 月 27 日
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	２時間
テーマ	地域づくり、過疎		
ねらい	・学習者が大人になった時の過疎地域のあるべき姿を想像させる		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	①過疎地域の動画を観て気が付いたことをワークシートに記入する。 ②過疎地域にあるものをワークシートに記入する。 ③将来過疎地域で暮らしたいか考える。 ④日本の多くが過疎地域になりつつあることを知る。 ⑤過疎地域が姿を消していく理由を想像する。	Youtube 天竜区プロモーションビデオ（春野地域）
2	⑥過疎地域を存続させるために、現在多くの税金が投じられている事実を知る。 ⑦過疎地域は滅びるべきか、アイデアやお金を使ってでも存続させるべきか考え、ワークシートに記入する。。 ⑧6 人班になり、それぞれの意見を画用紙に書き込む、 ⑨各班で出たアイデアを回し読みし、様々な考えや意見に触れる。 ⑩最終的な自分の考えをワークシートに書き込む。	

成 果	児童は過疎地域の課題と魅力を考え、多様な視点を持つことの大切さを学ぶことができた。「きれいな風景だから守りたい」「伝統を守りたい」などの前向きな意見が出る一方、「滅びゆくのは仕方がない」との声もあり、多角的に考える力と社会への関心が高まった。
課 題	児童は感情的な意見が多く、論理的に考えることが難しかった。また、都市と地方の関係を理解するのに時間がかかり、議論が浅くなりがちだった。さらに、対立する意見を尊重し合う姿勢を育む指導も今後の課題となった。
備 考	当初、小学 4 年生に過疎地域というテーマは少し難しいと考えていた。しかし、児童は予想以上に真剣に考え、自分事として授業に臨んでいた。

わたしたちにできる SDGs

07

所 属	静岡県浜松市立西小学校	実践者	伊藤　南緒
対 象	小学校５年生（２８名）	実践日	2024 年 11 月～2025 年 1 月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	12 時間
テーマ	環境、国際理解、SDGs		
ねらい	・SDGsについて知り、理解を深める。 ・SDGsの目標達成に向けて、自分にできることを考え、行動する。		

実践内容	回	プログラム	備 考
	1～2	○　SDGsについて知ろう！ ・SDGsってなんだろう（YouTube）を見て、SDGsの紹介をする。 ・SDGs すごろくを行い、17の目標や現状について、興味をもつ。	使用教材 ・動画（ベネッセ公式チャンネル） ・SDGs　すごろく（国際連合広報センター） ・SDGｓ目標カード（国連広報センター） ・ワークシート（EduTownSDGs） ・ワークシート（Savethechildren JAPAN,DEAR）
	3～7	○　SDGsについて理解を深めよう！ ・17の目標カードを使って、班で話し合い、目標の仲間分けをする。【回し読み】 ・17の目標の中で、興味や関心が高い順にピラミッドを作り、友達と伝え合う。【ランキング】 ・SDGsが達成された世界、達成されなかった世界について想像し、書き出す。【派生図】 ・新聞のニュースから、SDGsと日常のかかわりを知る。 ・ワークを通して、ほかの国の飢餓や、環境の問題について知り、自分たちの暮らしと比較する。【ジグソー法】	
	8～10	○　興味のあるものについて調べてみよう！ ・興味のある目標や、テーマについて、各自で本やインターネットを使い、調べ学習を行う。	
	11,12	○　SDGs達成のために、自分にできることを考えよう！ ・グループで、自分たちができることを考える。【ブレーンストーミング】 ・10個の行動宣言にまとめ、交流する。【行動宣言】	

成 果	・自主学習で SDGsについて、さらに詳しく調べてくる子がいたり、身近な生活の中でSDGsのマークを見付けたりと、SDGsに関心をもつ子が増えた。
課 題	・他教科との連携を図って行うと、さらに幅を広げることができると感じた。 ・規模が大きい話だと思ってしまい、自分にできることに落とし込むことが難しい子もいた。
備 考	・行動宣言は教室掲示をし、普段から意識できるようにした。

ネパールから世界を知る

08

所 属	愛知県津島市立西小学校	実践者	道野 大和
対 象	小学校５年生（７１名）	実践日	2024 年 ９月～１２月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	１２時間
テーマ	国際理解・人権・貧困・豊かさ		
ねらい	・ネパールの素晴らしさに気付き、世界に目を向ける。 ・外国とのつながりを感じ、世界について考え、よりよい未来の作り手となる気持ちを高める。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	◆全校朝礼でネパール研修報告 ネパールクイズ・日本と感じたつながり	全校朝礼で使用したスライド
2・3	◆ネパール料理「モモ作り」	資料：JICAつながる世界と日本（モノ編とごはん編）
4・5	◆なぜ、国際理解が大切なのか・・・？ ①海外に頼っているものは何？ ②もしも海外とのつながりがなくなったら・・【派生図】【回し読み】	
6	◆わたしの夢、あなたの夢 ・自分の夢・友達の夢 ビンゴゲーム ・ネパールの子の夢は何だろう？	6時間目に使用したスライド
7	◆私の国の誇り ・ネパールの誇りと残念 ・日本の誇りと残念は何だろう？	ネパールの子どもの夢の写真
8	◆人権週間から考える ・人権というか・・人間って何だ！？ ・私・私たち・みんなに必要なもの	
9	◆人権問題「貧困」 ・お金がないと起こること	「貧困」 お金がないと起こることの派生図
10	◆豊かさとは・・・？ ・本当の豊かさとは何だろう？	
（11） （12）	※出張授業 ネパールから人類共通の課題を考える ◆サプライズ「八神先生プレゼンツ～チェコからこんにちは～」 ・日本とチェコの違い・チェコ道徳～チェコ野球と全盲の大学生～	

成 果	全校にネパール研修についての報告を行うと、子どもたちの反応だけでなく、保護者からの反応が得られた。また、ほかの世界はどうなっているのだろう？と自分の中の興味を広げていく姿が見られた。
課 題	ねらいに迫るために、子どもたちの知識と授業案に差があることがあった。それを改善するためにインプットする時間を設けたり、発問を絞ったりする必要性を感じた。調べてみると素敵な実践が多くあるが、目の前の子どもたちに合わせ、微調整する力を高めていきたい。
備 考	

ちがいを越える・共に生きる

09

所 属	岐阜県瑞浪市立瑞浪小学校	実践者	丹羽 宏美
対 象	小学校５年生（２９名）	実践日	２０２４年９月
実践教科	特別の教科　道徳	時間数	２時間
テーマ	ちがいを越える・共に生きる　～男女の平等とは～		
ねらい	・世の中にあふれるさまざまなちがいを乗り越え、共に生きる心情を育む。 ・日常に溢れる「男らしさ」「女らしさ」を見つめ直し、共に生きるために大切なことに気付き、道徳的実践力を身に付ける。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**1. Q「身の回りにある言葉はどっちを表す言葉かな？」** ① 身の回りにあるさまざまな言葉について、男女のどちらを表現する言葉かを直感的に考え、タブレット端末上のノートで分類する。 ② 学級全体で意見を交流し、児童のノート同様に黒板に位置付ける。 ③ 学級内で意見の相違があった言葉を取り上げ、意見が異なる人がいるということは、その言葉を言われることをどう感じるかを想像する。 **2. 詩『私の生き方』を読む。** ① 岐阜市人権に関する作品募集（詩と標語）より、令和元年度優秀賞作品『私の生き方』を読む。 ② 「男だから」「女だから」と決めつけられることに息苦しさを感じている作者の思いを考え、話し合う。 **3. ふりかえり** ① 詩の作者と同じような経験が自分にもなかったかを振り返ったり、自分が日頃「女の子を指す言葉」「男の子を表す言葉」として何気なく使っていた言葉について見つめ直したりしながら、本時学んだことや感じたことをワークシートに書きまとめる。	タブレット端末 思考ツールを用いたワークシート 人権の詩『私の生き方』 ワークシート
2	**1. 絵本『ピンクがすきって決めないで』を読む。** ① 主人公の行動の中から、はっとしたところや、気になったところ、すてきだと思ったところなど、感想を交流する。 ② 主人公の「自分の好きなことを貫き通す」生き方の素晴らしさを知る。 **2. Q 先生の友達から「息子が“ピンクのランドセルがいい”って言っていて・・・どうしたらいいかな。」と相談を受けた。みんなならどうやってこの相談に答える？** ① 自分だったらどう返答するかを考え、グループで交流する。 ② 全体で意見を交流し、それぞれの返答の良いところはどこかを確認する。 **3. ふりかえり** ① 「男女の平等」に関わってちがいを越える・共に生きるためには、その人の好きなものを尊重すること、共感的にとらえること、分かろうと努め、否定はしないことが大切であることをまとめる。 ② まとめを踏まえ、本時学んだことや感じたこと、これから自分はどう生きていきたいかをワークシートに書きまとめる。	絵本『ピンクがすきって決めないで』 付箋 ワークシート

成 果	第1時の導入で行った言葉の分類の活動では、無意識的にもっている「男らしさ」「女らしさ」という感覚で使っている言葉が、世の中、さらには自分の中に、溢れていることに気付くことができた。しかし、第2時の最後には、「自分が自分らしくいることが大切である」や、「そういう人を周囲の友達として温かく受け入れていきたい」という共生的な気持ちをもつことのできる児童が大きく増えた。
課 題	SDGs の5番「ジェンダーの平等を目指そう」の中には、家庭や社会、政治における“男女の活躍の機会の平等”という意味での平等についても含まれているが、小学5年生という発達段階では、難しくて扱うことができなかった。家庭科の授業や社会科の授業で関連する学習を行った際に言及するなど、教科横断的に指導を重ねていくことが大切。
備 考	【出典】 ・人権の詩「私の生き方」…令和元年度岐阜市人権に関する作品募集の優秀賞作品 ・『ピンクがすきって決めないで』…作：ナタリー・オンス　絵：イリヤ・グリーン　訳：ときありえ （講談社）

だれもが安心できる居場所について考えてみよう

10

所 属	アジア保健研修所（AHI）	実践者	木村　ひかる
対 象	小学校６年生　総勢 502 名	実践日	2024 年 11 月～12 月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	1 回 2 限（総時間数 8 時限）
テーマ	「安心できる居場所」について考える		
ねらい	・「安心できる居場所」があること、つくっていくことが、公平な社会・健康な社会に繋がることだと気づいてもらい、行動のきっかけにしてもらう。		

実践内容

回	プログラム	備 考
10 分	＜AHI の紹介＞各クラス（30 人前後）で行う。 AHI の紹介を行う。子どもたちとのやりとりをアイスブレイク代わりとして行う。	＜使うもの＞ ・PPT ※ボランティアの方と一緒に進行
20 分	＜安心できる居場所を探そう＞ ●安心できる居場所とは？イメージがわくように、「状況・人・場所」に関する質問を3つする。1 つの質問には4つの選択肢があり、教室の四隅に番号札を貼って、子どもたちには選んだ番号の所へ移動してもらう。子どもたちには毎回選んだ理由を聞く。 ●質問が終わったら、選択肢がない状態で改めて「自分にとって安心できる居場所」には何が必要か問いかける。答えがすぐに出ない場合は3つの視点「状況・人・場所」を提示する。	・番号札 ・ぬいぐるみなど ※学校の先生にも一緒に動いてもらったり、意見を聞いて、可能な限り参加してもらう。
20 分	＜今後出会うかもしれない人のことを考えよう＞ グループトークができるように、分かれる。日本ではマイノリティーのキャラクター3人を紹介し、それぞれのキャラクターがこのクラスに転校してきたら、安心できるか、できないかを考え、安心できない場合はどうしたらいいかを考えてもらう。（各キャラ3分）。その後グループでどんな話をしたのか、発表してもらう。	・キャラクターの紙人形 ※グループトーク時は、学校の先生にもフォローに入ってもらう。
10 分	体育館に移動し、全体が合流する。	
10 分	＜各教室での感想共有＞ 学年みんなが集まったところで、各教室で行ったプログラムの感想を聞いていく。	・感想のカテゴリーを書いた紙を用意
10 分	＜アジアの1例を紹介。障害を持つ人も自分が住んでいる所が安心できる居場所となるように、環境や制度などを整えているブータンの NGO ワーカーを紹介＞ まず、大きい地図で場所を確認。その後ブータンクイズを二問行う。回答はグーチョキパーで一斉に出してもらう。	・大きい布の地図 ・伝統衣装（先生やボランティアの方に着てもらった。
10 分	NGO ワーカーのインタビュー動画を視聴。適宜止めて、解説を入れる。 インタビューでは、障害当事者でもある NGO ワーカーが、幼い頃に憧れの人を見つけて自立に向け動き出し、成長の過程でいろんな人に出会い、自分だけでなく、他の人にとってもブータンという社会を「安心できる居場所」にしたいと思い、活動している現在までの生い立ちを話している。最後にまとめの話をして、終える。	・動画

成 果	子どもたちからは、「『人を尊重する』ということが健康につながるのは初めての考え」、「自分が落ち着く場所を知ったことで、疲れた時はその場所に行くようにして、ストレスが軽減されることが多くなった」という言葉などをもらった。また、ボランティアの方からは、子どもたちとよりフラットな関係で学べるようなプログラムだという感想をいただいた。
課 題	「安心できる居場所」がない子どものことも想定し、現場ごとに選択肢外の対応もしていたが、選んでいる子どもたちを目の前にして、選びにくい子どももいたと思われる。プライバシーを考慮したものに改善必要。「安心できる居場所」づくりが公平な社会に繋がっていくことだと示すのも、難しさが残った。また、学校側の希望もあり、海外の NGO ワーカーの話を後半に持ってきているが、前半とのつながりを持たせるのが難しかった。
備 考	

共に生きる社会～知る・気づく・行動する

11

所 属	三重県津市立一身田小学校	実践者	前田　幸代
対 象	小学校６年生（27 名）	実践日	2025 年 8 月～２月
実践教科	国語・社会・道徳など	時間数	７時間
テーマ	人権、共生、コミュニケーション		
ねらい	・自分と相手を大事にするためのコミュニケーションを身につける ・歴史上起こったこと、社会で起きていることが自分にも関わりのあることを知り、きづく ・問題解決への手だてを考え、自分にできることを考え行動する。		

実践内容

回	プログラム	備 考
0	【3つはホント、1つはウソ】などのアクティビティ お互いに興味を持ち、お互いのことを知るために、1 年を通して行う	『よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集コミュニケーション編』 NIED
1	国語『伝えにくいことを伝える』 アサーショントレーニング ・冷静に自分の意見を考え伝え、相手の話を聞くことを意識して対話を重ねていく。 ・意見が異なる人とも、納得がいく話し合いをする。 ・自分も相手も大事にする話し方を考え、練習する。	
2・3	道徳「権利の熱気球」 ・身近にある様々な権利の順位付け（ランキング）をする活動を通し、人間が生きる上で欠かせない諸権利である人権の大切さを考える。 ・人権の根拠となる最も重要な価値である人間の尊厳・価値についての理解を深め、参加・参画を尊重しようとする態度を育てる。	
4	社会『よりよく生きる権利を求めて』 ・明治時代から大正時代に差別に苦しんでいた人々が自らの力で差別をなくす運動をはじめたことについて学ぶ。	
5	社会『好景気から不景気へ』 ・明治の初めから始まった移民について知る。 ・「日系」とよばれる人たちのルーツを知る	『学習活動の手引き』JICA横浜　海外移住資料館
6	社会『世界の中の日本とわたしたち』 ・JICAなどの国際的な活動を知る ・日本にとって身近な国について調べる	
7	道徳『多文化共生』 ・日本に住む外国の人にとって困難なことを考える ・多文化共生について考える	NHK for school『ドスルコスル』

成 果	コミュニケーションを図るアクティビティを何度も取り入れることで、自分のことをしってもらい相手のことを知る喜びと楽しさを共有できた。安心して話ができる土台をつくることができた。そのうえで、社会科で学ぶ歴史的な出来事と今の社会との関わりを考えることが出来た。
課 題	全体を通して、知ることが多く、それを自分の生活とつなげて考えることができているのか、また今後行動していくための意識の継続や手立てに課題が残った。
備 考	

世界の Well−being　自分の Well−being

12

所 属	静岡県浜松市立泉小学校	**実践者**	**坂田　英香**
対 象	小学校６年生（30 名）	**実践日**	2024 年 10 月～12 月
実践教科	（総合的な学習の時間）	**時間数**	45 分×8 時間（４・５回を除く）
テーマ	キャリア（自己理解・他者理解）		
ねらい	・世界にはどのような課題があるのかを知り、自分の生きる未来を想像する。 ・自己を見つめ、自分が「意義を感じること」「したいこと」「大切にしたいこと」などを感じる。 ・よりよい未来のために、自分ができることを宣言する。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1 （45 分）	**どんな大人になりたい？** ○ 魅力的な大人とは？ ○ 働くとは？ （㊗ クイズ“自分の当たり前“それホント？ →→ 次時からの目標：視点を変えて考えよう）	【対比表（円形）】 【ランキング】
2 （90 分）	**どんな未来になるといい？** ○ 世界が30人の村だったら ・・・ ○ 15 年後（自分が親になった頃）、どんな未来になっているといいかな？	【ロールプレイ】 【 Ｙ軸 】
3 （90 分）	**何のために働くの ？** **①課題解決のため** ○ 貧困の輪 → 課題解決のためにできること ㊗ネパールで活躍する人々の写真と貧困の輪のマッチング ㊗働く人の思い（動画）	【貧困の輪】 【マッチング】
（ ４ ）	**②やりがい・好きなこと** ○ 好きの分解 → 調べ学習 （＊担任実施）	【派生図（個人）】
（ ５ ）	③色々な人に話を聴こう 地域の人（大工・美容師など）・スポーツ選手など （＊担任が実施）	
6 （45 分） （45 分）	**自分を見つめよう** ○ 強みカード ＋ ジョハリの窓 ○ 仕事の分解	【強みカード】 【派生図 （グループ】】
7 （45 分）	**振り返り** ～ 自分の幸せ・みんなの幸せ ～ ○ やりがいランキング ○ 自分の「幸せ」をカードから選択 → ・みんなの「幸せ」を考える。 ○ 振り返り→ どのように生きたいか（大切なこと・幸せなこと）を振り返る。 よりよい未来のために自分ができることを考える。 ㊗写真	【ランキング】 【幸せカード】

成 果	多様な参加型の手法を用いることは、様々な視点から繰り返し児童の価値観形成に迫る上で有効であった。また、本研修の成果としては、自らの体験をもとに教材を作成できたことを挙げる。今後、児童が自らの変容を実感するためにどのような場面でどのような手法を用いると効果的なのか、研鑽を重ねたい。
課 題	第3回では、訪問先のネパールにて出会った方々を題材に教材化したものを活用した。児童にとって情報量の多さが課題となった。内容の精選と情報の共有の仕方を再検討して、他の学級で実施した。絵と簡単な情報付きのカードを用いること、児童が自分のカードを班の人に読み伝えるとよいと考える。
備 考	

Let's Save the Animals～プラスチックゴミから生き物を守ろう～

13

所 属	静岡県浜松市立西小学校	実践者	髙井 季代子
対 象	小学校６年生（70 名）	実践日	2024 年 11 月～2025 年 1 月
実践教科	外国語・道徳	時間数	10 時間
テーマ	環境		
ねらい	・プラスチックゴミが引き起こす問題を知り、自分たちの生活に関わっていることに気づく。 ・生き物が直面する問題を解決するために、自分たちにできることを考え、発信する。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	世界が抱える環境問題を知る ・身の回りのプラスチック製品探し、プラスチックのいいところ見付け ・世界で起きているプラスチックゴミ問題を知ろう①【フォトランゲージ】 ・世界で起きているプラスチックゴミ問題を知ろう②	・動画視聴（※1）
2	プラスチックゴミ問題が解決されない社会を想像し、解決のための方法を知る、考える ・学区にも、たくさんあるある！プラスチックゴミ ・もしも、プラスチックゴミが増え続けると？【派生図】 ・「ちょっとの可能性」（道徳）を読み、自分達にできることを知る ・5Rsについて知ろう【ジグソー】 ・自分が取り組んでいる「R」、関心がある「R」は？【ランキング】 5Rs＝Reuse、Refuse、Recycle、Reduce、Repair	・教育出版「小学道徳6」 ・HP 資料（※2）
3～8	チームで、自分たちにできることを考える ・プラスチックゴミから生き物を守る方法（R）、救いたい生き物を選ぶ ・選んだ生き物の生態、直面する問題、生き物を守るためにできることをプレゼンするために、チームで学習計画を立て、学習を進める	・東京書籍「NEW HORIZON Elementary 6」Unit 6
9, 10	チームで、自分たちにできることを発信する ・同学年の仲間や保護者に、選んだ生き物やその生態、直面する問題、生き物を守るために自分たちにできることを提案、宣言する。（外国語によるプレゼンテーション） ・振り返り、パフォーマンステスト（個人）	参観会にて、ギャラリー方式で実施

成 果	数ある環境問題の中から、児童にとって身近なプラスチックゴミに焦点をしぼることで、共通の背景知識や言語材料をもつことができ、英語による発表が実施できた。自分事として捉え、協働によるチームワークも強まった。グローバルな問題をグローバルな言語で発信することに意義や可能性を感じた。
課 題	提案内容を掲示し、意識が継続できるようにするとよかった。英語で行う必然性をさらに高めるために、次のステップとして海外に向けて発信できるとよい。調べれば調べるほど、伝えたいことが増え、高度な内容になり、英語で表現することは難しい。英語と日本語の部分を分けて発表することを推奨してもよかった。
備 考	（※1）https://youtu.be/uizJaBHyZ-8　国連広報センター“プラスチックの海” （※2）https://www.city.koto.lg.jp/381104/kurashi/gomi/5r/14139.html　江東区 HP“今日からはじめる5R”

普通ってなに？みんなが幸せに過ごすには

14

所 属	愛知県津島市立藤浪中学校	**実践者**	**野田 琴乃**
対 象	中学校１年生（31 名×３）	**実践日**	2024 年 12 月
実践教科	総合的な学習の時間	**時間数**	２時間×３クラス
テーマ	人権（多様性・自己肯定感）、コミュニケーション		
ねらい	・ 自分にとっての普通は、他の人に当てはまるとは限らないことに気付く。 ・ 自分も相手も大切にできる関わり方について考える。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1回	**「違いに気付く」** ・ 自分と他者には、生活背景や嗜好、感じ方、考え方は人それぞれであることに気付く。【4つのコーナー】 ○ 全く同じ回答をした人はいたか。 ○ 同じ回答をした人同士でも、理由は同じかどうか。 ○ 自分以外の全員が違う回答していたらどう感じるか。	授業スライド
	「普通ってなに？」 ・ 「私は」に続く10個の文を作成してグループで発表し合い、グループ全員に当てはまる文を探す。【わたしに関する 10 の文】 ○ 話す人は目を見て話す、聞く人はうなずいて聞くことを意識する。 ・ グループ全員に当てはまる文が、クラス全体に当てはまるか確認する。 ・ クラス全体で当てはまる「私は」の文を探す。【ブレインストーミング】 ・ グループ全員が当てはまった文は、世界中の誰にでも当てはまる文なのかを分類する。【対比表】 → **私たちにとっての普通は、他の人に当てはまるとは限らない。** ○ 違いはあって当然なのに、なぜ差別や不平等がなくならないのか。	ワークシート① 付箋紙・ペン 半模造紙 ※世界人権宣言を紹介する。
2回	**「みんなが幸せに過ごすには」** ・ 3つのコミュニケーション（相手を大切にしない主張・自分を大切にしない主張・自分も相手も大切にする主張）の実演を見る。 ○ どのコミュニケーションだと、話を気持ちよく聞くことができるか。 ・ それぞれのコミュニケーションを取り続けると、人間関係にどのような影響を及ぼすのか、グループで分担して考える。【派生図】 ・ 派生図を交換し、良い共感は星印を、良くない共感は涙印をつける。 ○ どのコミュニケーションを取ると、みんなが幸せに過ごせるか。 ・ 課題に対して、**「自分も相手も大切にする主張」**について、わたしメッセージを参考に各自で考え、ペアで実践する。【シミュレーション】 ・ 今日から自分ができる行動を考える。【行動宣言】	ワークシート② 半模造紙・ペン 参考文献(NIED)

成 果	参加型の手法である対比表や派生図を使い、生徒自身が考えながら作業する中で、授業のねらいを導き出すことができたため、一人一人が真剣に取り組んでいた。「自分と違う人に指摘したことがある」「攻撃的な話し方をしていた」と日常生活を振り返って、自分なりの行動宣言を書いていた。
課 題	養護教諭としての実践は時間に限りがあるのにも関わらず、内容を多く取り入れたため、広く浅い内容になった。今後は、全学年にアプローチできる立場の特性を生かして、学年に応じて学ばせたい内容を絞り、養護教諭としての実践や学年職員に依頼する実践を加えてステップアップできる計画を立てていきたい。
備 考	実践した授業は、学年職員にも見ていただき、学んだ内容が日常生活でも繰り返し意識できるように声掛けを依頼した。また、授業内容を保健便りに掲載し、生徒へのフィードバックと保護者への紹介を行った。

距離は遠く、心は近く～アフリカの方とつながろう～

15

所 属	愛知県安城市立安城南学校	実践者	野村　直孝
対 象	中学校１年生（３５名）	実践日	20234 年　１２月～１月
実践教科	（社会科）	時間数	６時間
テーマ	貧困、環境、教育		
ねらい	・アフリカの地理的特色について知る。 ・アフリカの現状と課題に目を向け、抱える課題について調べたり、考えたりする。 ・自分にできることについて考える。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	○あなたの知っているアフリカ、知らないアフリカ ・アフリカに対するイメージを書きだす【ブレーンストーミング】 【ポップコーン方式】 ・写真を通して、様々な姿のアフリカがあることを知る。	写真
2・3	○アフリカについて知ろう ・国名、地形、気候、宗教など、様々な視点からアフリカを知る。	タブレット アフリカの地図 雨温図・写真
4	○アフリカの課題に目を向けよう ・アフリカクイズ。【クイズ】 ・自分が気になるアフリカの課題を調べる。	タブレット
5	○本気でアフリカのことを考えよう ・アフリカの水汲みの現状を知る。 ・以下の9点について、「自分がアフリカのリーダーとして、政策を進めるとしたら、どのように優先順位を付けるか考える。」【ランキング】 【ギャラリー方式】 ①インフラの整備　②食料確保　③教育 ④子どもの健康ケア　⑤病気の予防　⑥妊婦の健康ケア ⑦住宅環境　⑧公衆衛生　⑨女性の社会進出	10kgの重り 付箋紙
6	○自分ができることを考えよう ・日本人として、アフリカの方たちのためにできることを考える。	タブレット （Padlet活用）

成 果	・生徒が主体的に課題を調べた。特に、第5時の活動では、積極的な議論が続いた。また、アフリカに対して持っているイメージ（貧困等）そのままの姿だけでなく、色々な姿のアフリカがあることを知るよい機会となった。
課 題	・遠い国アフリカのことを、なかなか自分事として考えることが難しかった。 ・時間数が足りず、余裕をもって活動に取り組むことができなかった。
備 考	

Nothing about us without us!（障がいがある人も障がいがない人も・・・）

16

所 属	三重県　四日市市立内部中学校	実践者	室田 大介
対 象	中学校１年３組（３４名）	実践日	2024 年９月～2025 年１月
実践教科	（総合的な学習の時間）	時間数	７時間
テーマ	一人一人を大切にする人権感覚の育成について		
ねらい	・子どもたち一人ひとりの人権意識の向上をめざす。 ・平等・公正の違いを理解する。 ・自身とは異なる立場の人がいることを理解し相手の立場を考え行動できるようになる。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	・「なぜ人権学習をするの？」 どうして人権学習をするのか、また、人権についての理解を深め、人権がなかったらどうなるかを理解する。	
2	・「平等」と「公正」の違い、「機会の平等」と「結果の平等」について考える。 身の回りにある「平等」のための仕組みや配慮を考え、世の中にはどんな仕組みや配慮があるだろうかについて理解を深める。	
3	・「できない原因はどこにある？」 個人の責任ではなく、社会モデルで考えることの必要性を知ると同時に、ハード面だけを整えても、マイノリティの人々が暮らしやすい社会にはならないことに気づく。	
4	・「Nothing about us without us!」 当事者の立場に立って物を考えているつもりでも、実際はさまざまな場面で見過ごしてしまっていることは無いかを考え、人権感覚を見直す。	
5	・「できないこと？　できること！」 身体が不自由な人と接したとき、自分ならどんな対応をするかを考える中で自らの人権感覚を見直し、自分の中にある決めつけや偏見に気づく。	
6	・「できないからこそできること」 多様な人と関わることの意義について知る。他者との関わりの中で自分にないものを学んだり、取り入れたりすることのよさに気づく。	
7	・「みんなでいきたい！」 障がいがある人と一緒に旅行にいくためのプランを考える。みんなが一緒に楽しむためにはどのようなプランがいいか、アイデアを出して発表する。【派生図】	

成 果	自分とは立場の異なる人がいること、その人の立場にたってどのような行動や言動をすればいいのかを子どもたちが協力して考えることができた。生徒から「本当のやさしさについてわかった気がする。」という発言があった。
課 題	子どもたちの中から、「自身の家族に障がいをもっている人がいる。」や「もう少し現実的な条件でプランを考えてもいいのではないか。」と意見があった。今後、実践していくにあたって、参考にしてきたい。
備 考	

SDGs×キャリア教育　～「より良い未来」をみんなで作ろう～

17

所 属	愛知県名古屋市立鳴子台中学校	実践者	山田　拓弥
対 象	中学校１年生（１４９名）	実践日	2024 年 9 月～2025 年 1 月
実践教科	総合的な学習の時間、英語	時間数	10 時間
テーマ	国際理解、SDGs、キャリア		
ねらい	・世界の課題の背景を考え、より良い社会の実現には、一人一人の行動や協働が必要であることに気づく。 ・より良い社会の実現や SDGs の目標を達成するための「未来の仕事やアクション」を考え、自分にできる行動を積み重ねようとする姿勢を育む。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**ネパールについて知ろう！ネパール語で自己紹介をしよう！** ・ネパールに関するクイズや、ネパール語での自己紹介を通して、ネパールと肯定的に出会う。【フォトランゲージ】	・教師海外研修の写真
2	**ネパールと日本の共通点・相違点を考えよう！** ・写真を見て、日本と同じ点、違う点を書く。【フォトランゲージ、対比表】 ・あってよい違いとあってはいけない違いを考える。【対比表】	・教師海外研修の写真
3	**ネパールを通して、貧困について考えよう！** ・カードを使って「貧困の悪循環」を学ぶ。【因果関係図】 ・支援の「事例カード」を、「貧困の悪循環」へ貼り、貧困の悪循環を断ち切るにはどのような方法が良いかを考える。【マッチング】	・国際理解教育実践資料集（JICA） ・教師海外研修の写真
4	**SDGs の目標を調べ、自分にできることを考えよう！** ・一人一つ割り振られた SDGs の目標の内容や課題を調べ、自分にできることを考える。廊下に掲示し、他の生徒と学んだことを共有する。	・SDGs CLUB（日本ユニセフ協会）
5-6	**国際的な問題や地域の問題を紹介するポスターを英語で書こう！** （NEW HORIZON English Course1 Unit9 Think Globally, Act Locally ）	
7	**市内分散学習を通して企業や団体の SDGs アクションを学ぼう！**	・JICA 中部や名古屋国際センターなど
8	**ネパールで活躍している日本の方や企業について知ろう！** ・JICA 海外協力隊の方や企業で働く方の話から、ネパールと日本のつながりやより良い社会の実現のために努力している人たちについて学ぶ。	・教師海外研修の動画
9-10	**未来の仕事やアクションを考えよう！** ・より良い社会の実現や SDGs の目標を達成するために「未来の仕事やアクション」を考え、発表をする。 ・1年間の振り返りと今後心がけたいことを入力する。【行動宣言】	

成 果	・年間を通して国際理解教育とキャリア教育に関する参加型授業を実践し、肯定的に異文化と出会うことができたり、級友と意見を交換しながら学びを深めたりすることができた。 ・世界の現状を知り、課題の解決のために自分にできることから行動したいという気持ちが高まった。
課 題	・時間が限られていたため、急ぎ足で行った活動があった。考えを共有したり、深掘りしたりする機会を大切にしたい。また、今年度の実践をきっかけにし、自らの住む地域や自国のことを考える機会を作りたい。
備 考	・インターネット電話を使って、ネパールの中学生と日本の中学生が交流する機会を計画している。

貧困はただの言葉じゃない　現実の壁を乗り越えたい

18

所 属	大治町立大治中学校	実践者	渡邊　幸介
対 象	中学校科学部（１年：８人、２年：６人）	実践日	2024 年　１２月～１月
実践教科	総合的な学習の時間・学活	時間数	４時間
テーマ	人権　貧困		
ねらい	・豊かさや貧困について考えることを通して、貧困問題の解決に向けて、行動しようとする気持ちをもつ。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1・2	**―「豊かさ」ってなんだぁ？―** ①自己紹介・・・すごろくトークをして、学年混合で自己紹介をした。 ②国当てクイズ・・・5枚の写真を見て、それぞれがどの国の写真か予想する。 ③写真紹介・・・写真の裏側に書かれた情報を基に、写真の国を紹介し合う。 ④ランキング・・・5枚の写真を「豊かだと思う」順番に、グループでダイヤモンドランキングを作成する。 ⑤グループランキングが決まったグループは「豊かさの基準」を、決まらなかったグループは「決まらなかった理由」をA3用紙に書き出す。 ⑥自由に歩きまわり、他グループのランキングとA3用紙を確認する。 ⑦ふりかえりを記入する。	
3・4	**―「貧困」ってどうにもならないんかなぁ？―** ①自己紹介・・・しりとり自己紹介。順番が前の人の最後の言葉でしりとりをしながら自己紹介をした。 ②お金クイズ…ユニセフの資料を基に、お金や貧困に関するクイズ作成し、貧困の定義や世界の貧困について理解を深める。 ③貧困の輪…「貧困」だとどうなるかを考え、グループで話し合いながら、7枚のカードを輪に並べる。 ④貧困の輪の断ち切り方…どんな手立てや支援があると貧困の輪を断ち切ることができるか考える。 ⑤ギャラリー方式で模造紙を共有する。新たな考えに☆印を書き込む。 ⑥支援活動をしている団体のカードをグループに配付し、貧困の輪のどこを断ち切るための活動なのかを考え、団体カードを模造紙に貼る。 ⑦豊かな輪…「豊か」になるために必要なことを考え、輪を作成する。 ⑧ふりかえりを記入する。	

成 果	・今回の活動を通して、他学年との関わりが増え関係が深まったことで、科学部の活動が活発になった。 ・学級では活動が控えめな生徒も、活動に取り組んだり発言をしたりすることができた。
課 題	・プログラムに活動を多く取り入れたことで、活動時間が長くなってしまい集中力が切れてしまうことがあった。一時間ごとの活動量を厳選することや何のための活動なのかを明確にすることを次回に生かしたい。
備 考	

みんなでつくろう！学級をよりよくしようプロジェクト

19

所 属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	木村　凌太
対 象	中学校2年生（33名）	実践日	2024 年　7 月～ 1 月
実践教科	学級活動	時間数	3 時間
テーマ	共生、コミュニケーション		
ねらい	・ 話し合い活動を通して、新たな課題を見つける力を育て、自ら課題解決の方法を考える。 ・ 学級をよりよくするために他者と協働し、話し合い、合意形成を図ることで、改善案を実践する意欲を高める。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1・2	「学級をよりよくしようプロジェクト」 〇自分のいいところ探しをする。 〇ペアを作り、いいところを伝え合う。 〇自分たちのクラスを振り返り、気付いたことを付箋に書く。 ・4人グループに分かれ、出た意見を半模造紙にまとめる。 模造紙を用意し、「よいところ」「さらによくしたいところ」に分類して、付箋を貼る。【KJ 法】 ・それぞれ付箋に書いたことに対する改善方法を別の色の付箋に書いて貼る。 〇課題を達成するためのプロジェクトを考える。【ブレーンストーミング】 ・グループで1つテーマを決め、学級全体で課題に取り組めるようなプロジェクトを考える。	
3	「学級をよりよくしようプロジェクト②　～3年生に向けて～」 〇かっこいい3年生の姿とは？【因果関係図】 自分たちが目指すべき3年生の姿を考え、共有する。 〇どのようにすれば目標とする姿に近づけるか考える。 〇課題を達成するためのプロジェクトを考える。【ブレーンストーミング】	

成 果	学級全体で課題に対して、主体的に考えようとする生徒が増えた。プロジェクトとして掲示をさせたことで学級全体の意識が高まった。 また、自らがプロジェクトを計画することで、協働することの楽しさや意義を感じた生徒が多くいた。
課 題	一時間の授業で自分たちの行動を振り返り、改善点と改善案を見つけ、行動に移していくのは難しいと感じた。教師が課題を提示するのではなく、生徒が主体的に考え、課題を見つけるためには日頃の声かけの積み重ねが大切だと感じた。
備 考	

○○とわたし ～好きな自分になるために～

20

所 属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	添田　りのん
対 象	中学校２年生（３３名）	実践日	2024 年 11 月 ～ 2025 年 2 月
実践教科	（道徳・学級活動）	時間数	６時間
テーマ	コミュニケーション、共生		
ねらい	・　他者との違いについて知り、自分や相手の魅力に気付く。 ・　円滑なコミュニケーションのスキルを身に付ける。		

実践内容

回	プログラム	備 考
１・２	◆　クラスとわたし	
	○　「仲間探しジェスチャーゲーム」で「好きなフルーツ」をテーマにジェスチャーで集合し、非言語コミュニケーションの不便さを体験する。	
	○　学級でコミュニケーションを行う時の問題点を考える。【ポップコーン方式】	Ａ４用紙
	○　問題を解決するために、伝え手と受け手それぞれの立場でコミュニケーションにとって大切なことを考える。【対比表】	Ａ３用紙、ペン
	○　「一人一役」でより良い居場所（学級）をつくるために、自分にできることを考える。【行動宣言】	ワークシート
	○　級友の宣言にメッセージを送る。	付箋
３	◆　対立とわたし	
	○　「対立」との向き合い方について知り、これまでの自分を振り返る。	
	○　資料『民主主義と多数決の近くて遠い関係』を読んで、「好きな案」と「望ましい案」の違いから、本心と要望について考える。	教材：光村図書出版『きみがいちばんひかるとき』より
	○　「みんなでバカンス」のスキルトレーニングを用いて、前時で考えた伝え手と受け手にとって大切なコミュニケーションの取り方を実践しながら、本心と要望を伝え合う。【因果関係図】	ホワイトボード等
４	◆　あなたとわたし	
	○　「素敵なハート」で伝えることの難しさや楽しさを体験する。	Ａ５用紙
	○　資料『「桃太郎」の鬼退治』を読んで、相手の立場になって物事を考えることの大切さに気付く。	
	○　アサーショントレーニングを行い、さまざまな目線から物事を考えたうえで、どのような伝え方をすればいいか考える。【シミュレーション】	教材：2024 年度開発教育指導者研修（実践編）「３つのタイプとわたしメッセージ」
５・６	◆　わたしとわたし	
	○　資料『優しさの光線』を読んで、自分を見つめ直し、長所と短所を自分のよさとして向き合う。	
	○　グループに分かれ、自分の短所を肯定的な表現に書き換える。	Ａ４用紙
	○　肯定的な表現に書き換えたカードを使って、自己紹介をしあう。聴き手は「○○なあなたって素敵ですね」など、肯定的に返事をする。	
	○　より良い自分になるために、行動宣言を行う。【行動宣言】	模造紙、画用紙

成 果	互いを認め合う機会を多く設定したことで、自分のことだけではなく、思いやりの心をもち、相手のことも大切にしようとする生徒の姿が見られた。また、生徒にとって、在籍する学級が一つの大切な居場所であると気付くきっかけとなった。
課 題	宿泊研修や人権集会など学校の活動と、学習内容を絡ませて実践をすることができたが、内容の重複や、スキルトレーニングの順番が複雑になってしまったことが課題となった。
備 考	生徒が学びを振り返ることができるように、廊下や教室への掲示をしたり学級通信で学習内容を再度共有したりした。

世界の架け橋プロジェクト ～共に生き、共に乗り越える～

21

所 属	静岡県沼津市立大岡中学校	実践者	長澤 佑亮
対 象	中学校２年生（126 名）	実践日	2025 年 1 月～2 月
実践教科	（言語読解・社会科地理的分野）	時間数	９時間＋α
テーマ	多文化共生　国際理解　地域の在り方		
ねらい	・ネパール人をはじめ外国人移住者のバックグラウンド（Push 要因）と日本の現状（Pull 要因）を理解した上で、多文化共生の実現に向けたまちづくりについて考える。 ・国際理解の重要性に気づきながら、私たちの暮らす地域の未来を想像し、深めていく。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**「ネパールクイズ大会 ～ネパールってどんな国？～ 」** ・実際にネパールで感じた「！」と「？」をクイズ形式で学ぶ。 ・ネパールについての概要を理解し、興味・関心を抱く。	【クイズ】 ・Kahoot! で実施 教材：マニ車、紙幣、硬貨、サリーなど
2	**「貿易ゲーム① ～世界のリアルを教室で体験しよう～ 」** ・貧富の差が生じる要因や国際協力の重要性について反省的に気付く。	【貿易ゲーム】 ミッション：①は「利益を出すこと」②は「平等な世界を築くこと」、どちらも同じグループ・設定で実施
3	**「貿易ゲーム② ～平等な世界は実現可能なのか？～ 」** ・平等な世界の実現可能性や実現に不可欠な要素、および実現を阻害する要因について理解する。 ・「平等」の価値観について考察する。（平等・公平・公正）	
4	**「You は何しに日本へ？ ～スニールさんはなぜ日本にやってきた？～ 」** ・ミステリーを解きながら、スニールさんが日本にやってきたストーリーを作成する活動を通して、来日するネパール人のバックグラウンドに気付く。	【ミステリー】 教材：カード25枚、ヒントカード4枚 ミッション：ネパールから日本にやってきたスニールさんのストーリーを作成しなさい。
5	**「You は日本をどう思う？ ～ネパールでのインタビューを通して～ 」** ・前時で作成したストーリーを読み合いながら、来日するネパール人のバックグラウンドを理解する。また、動画にて現地の声を視聴する。 ・現地でのインタビュー動画を視聴しながら、ネパール人が日本にどのような印象を持っているかを知る。（対比表）	
6 7 8	**「多文化共生のまち 沼津へ」** ・増加する外国人移住者にとっても、私たちにとっても「暮らしやすい」まちを実現するための提案や主張の準備をする。 ・平等な世界の実現を視野に、移住者のバックグラウンドに配慮した多文化共生を実現できるような提案・主張づくりを意識する。	【プレゼンテーション】 ミッション：沼津を多文化共生のまちにするための取り組みを提案もしくは主張し、プレゼンしよう。
9	**「多文化共生のまち・NUMAZU ～共に生き、共に乗り越える～ 」** ・各グループで作成した提案・主張を発表し、互いに評価・コメントする活動を通して、よりよい社会の実現について考える。	
＋α	**「ネパール特別展示会」** ・ネパールに関する展示に触れ、体験することでネパールをもっと知ってもらう	教材：ネパール BOX 昼休みに2日間実施

成 果	「日本にきた外国人移住者」という認識の向こう側にある「移住の理由」と「社会システム」について理解した上で、自分たちの住む地域の課題を見直し、よりよい社会のために必要なことを提言することができた。特に、ミステリーの活動は、ネパールの社会構造を俯瞰的に捉えることを促し、まちづくりの活動において国際理解および他者理解の視点を助長したと感じる。
課 題	ミステリーを通して「仮想上での外国人移住者」との対話はできたものの、実際の外国人移住者やそれを希望する人、すなわち「本物」との出会いや対話は実現できなかった。よりよい社会の形成のためにも、地域の現状に対し切実性をもって考えることが重要である。これを課題とし今後も継続して実践に努めたい。
備 考	当初、「貿易ゲーム」は構想になかったが、ネパールクイズを終えて「なぜ国が違うとこんなにも格差が生じるのだろうか」という生徒たちの声を聞き、急遽であるが実施した。

コーヒーカップの向こう側

22

所 属	愛知県瀬戸市立南山中学校	実践者	大崎　誠
対 象	中学校１～３年生（特別支援学級 13 名）	実践日	2024 年 11 月 18 日（月）
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	2 時間
テーマ	貧困		
ねらい	・身近なコーヒーを例に、生産国の現状と世界の流通の仕組みを理解すること ・コーヒー流通のしくみをふまえて、そこでの世界貿易の問題点を把握すること		

実践内容

時間	プログラム	備 考
9:50 （15）	1　コーヒーQ＆A ①コーヒーの実は何色をしているでしょう？ ②日本では，コーヒーは年間一人あたり，どのくらい飲まれているでしょう？ ③コーヒー消費国の上位3カ国・地域の組み合わせとして，正しいものはどれでしょう？ ④コーヒー生産量の上位5ヵ国を多い順に並べ替えてみましょう。	開発教育教材
10:05 （10）	2　自分のコーヒーカップを選ぶ ・銘を入れる。釉薬について灰オフケか黄瀬戸か選ぶ。	
10:15 （40）	3　アロマ村のコーヒー農園（シュミレーション） （1）参加者は，向き合って相談しやすい4人×3グループをつくる。 （2）参加者全員が農民役となる。 （3）各グループにワークシート「アロマ村について」を配る。 （4）参加者は農民の役柄を理解する。 （5）カプチーノ社の社員（以下社員）は，コーヒー栽培を農民に薦める。 （6）参加者は，自分たちの農地でどのくらいコーヒーを栽培するか決定する。進行役は，契約区画数の合計を記録するとともに，区画数を決めた理由を聞く。 （7）「計算シート1年目」を配り，1年間の収支を計算してもらう。ファシリテーターは補足説明などを行うほか，計算の補助をする。 （8）社員は2年目の交渉を行い，契約区画を増やすように努める。進行役は，契約区画数を記録する。 （9）「計算シート2年目」を配り，2年目の収支を計算してもらう。 （10）黒字/赤字の合計欄には，前年度の合計にその年の黒字/赤字を加えた額を記入するように伝える。これ以後はこの繰り返し。	
（10:40 休憩 10:50）		
11:05 （35） 11:40	4　アロマ村のコーヒー農園（ディスカッション） （1）疑似体験をして気づいたことや疑問点をあげてもらう。【ブレストリスト】 （2）どのような条件や状況があれば，よりよい交渉ができたと思うか。【ブレスト寄せ書き風】	

成 果	生徒の感想発表で「スーパーなどでフェアトレード商品を選ぶようにしたい」や「普段の生活で色々なものに興味をもって，もっと調べていきたい」など実践できそうな意見があった。
課 題	時間が足りず 4 以降ができなかった。「いい貿易って何だろう？」につなげたい。
備 考	場所：窯業室

一枚の服とつながる～私と誰かと地球～

23

所 属	愛知県小牧市立桃陵中学校	実践者	出　村　寛　美
対 象	中学校１・３年生（240 名）	実践日	2024 年 10 月/2025 年 1 月
実践教科	技術・家庭科（家庭分野）	時間数	６時間
テーマ	服と自分とのかかわり　～私を選んだからには責任取ってよね～		
ねらい	・自分の衣生活を見直し、持続可能な衣生活について主体的に考える。 ・持続可能な衣生活実現のために自分ができることについて生活を工夫する。 ・衣服の一生を通して環境人権に与える影響について理解を深める。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	どうして衣服を着るのだろう	
2	私らしさと TPO	3 年生は『消費生活と環境』領域も関連させる
3	日本の衣文化	
4	衣服計画と必要な衣服の選択	
5	衣服の手入れ	
⑥	一枚の服とつながる～私と誰かと地球～	
	①Check In 【最近買った服、最近ほしい服】 4 人グループ 1 人 30 秒ずつテーマについて話す。	・持参したお気に入りの服
	②今日の授業の目標と進め方の確認	
	③『服の一生』をたどろう 服の生産から廃棄までの段階を示したカードをグループで並べかえる 繊維の種類や衣服の表示などについて既習内容ふりかえる 全体で確認する	・衣服の一生カード ・環境カード
	④衣服に関する問題について説明し、どの段階で発生する問題か考えよう グループ 4 人にそれぞれ違う問題カードを配布する それぞれのカードの内容について読み込む 分からないことはインターネットで調べたり、教科担当教員に質問する 仲間に分かりやすく伝えられるよう言葉を変えたり、資料を用意する 順番にカードの説明をする その問題は『衣服の一生』のどこで発生しているかグループで話し合う 全体で共有する　教科担当より補足の説明をする	・人権カード
	⑤なぜこのような影響が発生しているのか考えよう グループごとに書き出す　各グループの考えを全体で共有する	
	⑥影響を減らすために自分たちにできること考えよう グループごとに書き出す　各グループの考えを全体で共有する	・A3 用紙 ペン
	⑦Check Out 【持続可能な衣生活を実現するために自分にできること】 衣生活全体の授業と今日の授業をふりかえる 自分の衣服選びや衣服の手入れでどのようなことができるか考える 具体的なアクションに奥にある自分の考えを明確にさせる グループで発表する	・ワークシート

成 果	このワークを通して、学校での学び、自分の日常生活、地球環境、自分以外の人の暮らしなどを往還しながら、ヒトコトモノのつながりについて考えさせることができた。仲間に伝えるために自ら理解に努める様子や、ふりかえりで消費における自身の態度を見直す記述などが多くみられた。
課 題	衣服に関する不都合な真実の一片を理解できても、生徒自身の力では人権・環境を守る衣生活にシフトするのは困難である。知ること、理解することで第一歩を踏み出せたことを評価したい。
備 考	参考資料　服・ファッション開発教育アクティビティ集5（DEAR 開発教育協会）

ファストファッションの裏側に目を向けてみよう

24

所 属	愛知県名古屋市立北高等学校	実践者	東谷　亜希子
対 象	高校１年生（30 名）	実践日	2024 年 9 月～10 月
実践教科	プラクティカルイングリッシュⅠ（学校設定科目）	時間数	６時間
テーマ	ファストファッションの裏側の問題について知り、行動を変えるきっかけとする		
ねらい	・　身近な衣服に関する問題について知る ・　今後の行動を変えるきっかけとする		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	①アイスブレイク 4つのコーナー（ファッションについての質問） ②ファッションについての英文記事を読み、「ファストファッション」の定義「安い」「早い」「流行」「大量生産」を知る ③グループで、「ファストファッションにまつわる問題」は何があるか、書き出してみる 【ブレインストーミング】 他のグループとシェア【ギャラリー方式】	模造紙、ペン
2	④自宅の服3枚のタグをロイロノートで提出させておく 素材、販売メーカーの国、作られた国を記入 地図上で「販売メーカーの国」「作られた国」をシールで色分け 気づいたことを振り返り ⑤服のライフサイクル 英語で書かれたカードを並べ替え、模造紙に貼る その工程において、どんな問題が隠されているかを考え、記入する	ワークシート 白地図 シール（赤、青） 模造紙、ペン
3	⑥問題カード（2色）の配布 1枚ずつ取り、グループでそのカードがどこの工程の裏側に隠れた問題なのかを話し合い、模造紙に貼っていく 2色の違いは何なのか、考えさせる （ピンク…人権　緑…環境問題）	カード（ピンク、緑）
4	⑦それぞれの問題を防ぐためにできることを考え、模造紙に記入する 他のグループとシェア【ギャラリー方式】 ⑧動画を見る(You tube) 「The true cost」の予告編 「ファストファッションの末路」	
5	⑨ラナプラザ崩壊の英文記事を読ませる ⑩自分たちにできることを考える 英語で「私ができること」を書き、共有　→写真撮影	A4 用紙、ペン
6	⑩名市大サステナビリティプレゼンアワードに向けての準備、発表	

成 果	生徒たちが、普段何気なく購入しているファストファッションの裏側に、途上国の労働者の厳しい現実があること、また化学繊維でできた衣服を洗濯するだけで、マイクロプラスチックが流出してしまうことなどに気づくことができた。
課 題	時間が足りずに、あまり掘り下げることができずに終わってしまったところもある。 もう少し、各問題について考えさせることができるとよかった。
備 考	使用教材 服・ファッション―開発教育アクティビティ集5（特定非営利活動法人 開発教育協会 DEAR）

あなたが変わると世界が変わる？

25

所 属	（公財）豊田市国際交流協会	実践者	宮本　貴文
対 象	高校１年生（１９名　国際分野進学希望者）	実践日	2024 年 10 月
実践教科	総合：社会探求	時間数	1 回（4. 5 時間）
テーマ	【多文化共生、キャリア、コミュニケーション】多様な背景を持つ人々とともに暮らす		
ねらい	・市内で暮らす外国人の現状を知り、協働するためのコミュニケーション力を育む ・外国語を何のために学び、世界や地域でどう活かすかを考えるきっかけにする ・市の将来の国際化を担う人材の育成		

実践内容	回	プログラム	備 考
		※高校が取り組む年間全15回の「社会探求」の授業のうち1回を実践者が実施 ●事前予習（学校にて教員が実施） ①あなたが外国語を学習する理由は何か ②在住外国人が日本で生活する際に困ると思うことは何か ③「言葉の壁」とは何か	
	AM 2h	●外国人と共に暮らすことについて考える 1.　市内の国際化の現状紹介 2.　文化と異文化って？（あたりまえの違いを考える）【対比：ある/ない】 ・文化や背景の違いを知り、その背景にある「理由」を聞くことの大切さを意識することをねらいとして、人それぞれの違いをペアで考える。 3.　あなたが外国語を学ぶ目的は？ ・自分が外国語を何のために学ぶかをペアで発表。 将来に向けた学びの意識づけをねらいとして実施。 4.　多文化共生って何？「言葉の壁」を考えよう【派生図】 ・「言葉の壁」をなくすため自分たちにできることをグループで考える。	【参考教材】みんなでつくろう多文化共生社会（愛知県多文化共生推進室　発行）
	PM 2. 5h	●外国語で異文化を理解する 1.　導入：アイスブレイク【外国語でフルーツバスケット】 2.　展開：外国語で異文化理解（外部講師参加　以下外国語で実施） ・導入：自己紹介＆質問 講師の国の文化紹介＆質問 ・展開：「日本の暮らしのいいところ・悪いところを聞き、外国人の課題を考えよう」 3.　収束：振り返り ・異文化を持つ人と共に暮らす上で心がけたいと感じたことは？ ●課題探求授業の発表会（1月）	外部講師 ・第２外国語で英語を学んだ外国人（インドネシア、香港、インド出身講師）

成 果	・日本人の価値観、考え方、文化を押付けず、違いを受入れ尊重することが大切と感じた（学習者の意見） ・外国語を学ぶ目的を考え、自分にできることに目を向けるきっかけになった。 ・やさしい日本語や非言語コミュニケーションなど、多様な手段を学び、体験するきっかけになった。
課 題	・初対面の講師と外国語で話すことのハードルの高さが課題。生徒が一人一人意見を言いやすい環境や、日本語と外国語の時間を定めて使い分ける時間を設けるなど、生徒が自分の意見を日本語で練り、場合によっては相談し合い、考えをまとめる時間を持つことも、意見を発表するために必要な時間である。
備 考	学校が取り組む課外活動の外部講師として、1 回（4. 5時間）の内容を教員と相談の上で実施。

フェルトの動物たちはどこからやってきたの？

26

所 属	岐阜県立加茂農林高等学校	実践者	村井 美穂
対 象	高校１年生（40 名）	実践日	2024 年 11 月
実践教科	英語コミュニケーションⅠ	時間数	2.5 時間
テーマ	国際理解、消費行動		
ねらい	・キルギスと日本のよさや課題に気づくことができる ・専門科目の授業で学習する地域資源活用が、国際協力の場でどう実践されているかを知る ・消費者としてどのような商品を購入するとよいか考える		

実践内容

回	プログラム	備 考
0	「キルギスってどんな国？」 ・遊牧民の文化、特徴的な食文化、言語、日本との共通点など　【クイズ】	
1	「フェルトの動物たちはどこからやってきたの？」 ・キルギスからやってきたフェルトの動物をさわってみよう ・写真を並べてストーリーを作ってみよう　【ストーリーテリング】 （動物との暮らし、伝統的な手工芸、商品化、作り手） ・日本とキルギスにおける「一村一品運動」について知る ・一村一品運動はキルギスにどんな効果をもたらした？ ・個人で資料を読む→付箋に書き出す　【ブレインストーミング】 ・グループで、並べ替えた写真に付箋を貼ってみる　【分類】 どのフェーズに影響があるのか整理する	FAIRTRADE JAPAN パンフレット「どのチョコを選ぶ？」「この T シャツ、なにがちがうの？」
2	“What do you want to buy?” ・グループで交流する　【アイスブレーキング】 「世界の生産者の現実は？」 ・世界に視線を広げ、カカオや綿の生産者の現実を読み取る 持続可能性を妨げる要因を書き出す　【ブレインストーミング】 「フェアトレードにできること」 ・持続可能性を妨げるものに対して、フェアトレードが持続可能性を高める要素を整理する　【力の分析】 「消費者として、どんな視点で商品を選ぶ？」 ・これまでの学習を踏まえて、「〇〇な商品を購入したい」という宣言をまとめる　【行動宣言】	MUJI × JICA プロジェクト キルギス編 キルギスの一村一品運動はなぜ成功したのか？　ゼロからの取り組みが国家プロジェクトに進化した理由

成 果	キルギスと日本とのつながりを感じながら、生徒が学習している「地域資源活用」が途上国でどのように実践されているのかを具体的に考えることができた。作り手として、消費者としての両面から、自分の消費行動を見直す機会になった。
課 題	前半と後半を入れ替えて、世界的な問題意識から、その解決策、自分にできること、というの流れを作れるとよかった。最後の行動宣言が表面的に終わらないよう、身近な例を取り入れるなどして自分事としてとらえられる工夫が必要だった。具体的なアクションを取れるようにもっていければよかった。
備 考	

Crossing the Border（どんな垣根も飛び越えていこう！難民の背景を知ろう！）

27

所 属	兵庫県立尼崎北高等学校	実践者	稲中　優子
対 象	高校２年生（276 名）	実践日	2024 年 7 月～12 月
実践教科	特別活動	時間数	６時間以上
テーマ	貧困・難民・人権		
ねらい	・国際貢献は生徒自身が「汗をかく！」生徒が主体的に動いて実行すること。 ・いろんな人と結びつくことで、地域と一体化して課題解決に取り組むこと。 ・いろんな人と繋がって地球規模の課題を解決する力をつけ、「自分も誰かの役に立つ」という１７歳の経験をすること。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**●「難民についてのワークショップ」 7/10** 貧困と難民、その背景にある SDGs1「貧困をなくそう」について参加型ワークショップを実施した。UNHCR さんより頂いた「命のメジャー」を使い、難民の子どもたちの命の危険や今何が必要なのかを話し合った。	学年集会で実施 命のメジャー
2	**●「ユニクロ職員さんによる難民のワークショップ」 7/16** ユニクロ職員さんのワークショップで難民学習を行った。自らが難民になった時に「難民とはどんな人か」「難民になったら何を持って逃げるか」を学んだ。	
3	**●難民キャンプに送る服の回収活動　7/16～8/31** ① 本校の位置する尼崎市全域の小・中学校に、不要な服の回収を依頼し「“届けよう服のチカラ”プロジェクト」への参加を生徒自らが依頼する。（アポイントの取り方や、プロジェクト説明の仕方を指導した。） ② 生徒が各小・中学校の教頭先生方と回収方法などについて打合せ。 ③ 8月末頃、生徒に向けてプロジェクトの内容をプレゼンテーションした。 ④ 回収箱やポスターを設置 ⑤ 9 月～11 月不要な服を回収し、難民キャンプ発送した。	模造紙・マジック 段ボール・画用紙など
4	**●「回収ありがとうポスター作製」 11/6** 全回収先に向けて、難民への服の回収に協力して頂いたことの感謝を示すポスターを作製し、活動の振り返りを行った。 生徒にはこのポスターを回収先に持参するよう指導した。	模造紙・マジック
5	**●難民の現状理解①フォトランゲージ参加型ワークショップ　12/16** ① アイスブレイク【「服のチカラプロジェクト」で学んだこと・ポップコーン方式】 ② 「開発途上国に生きる人々についてお話の続きを作ろう」【フォトランゲージ】 ③ 難民の背景を知ろう【フォトランゲージ活動】 ④ まとめ…難民は単に国や住居を追われた弱い存在ではなく、夢・希望・生きる力を持つ存在であることをシェアリング	フォトランゲージ用ワークシート
6	**●難民の現状理解②「命の持ち物けんさ」参加型ワークショップ　12/17** 集会で難民とはどんな存在かを理解するため、喪失の疑似体験「命の持ち物けんさ」を参加型学習形式で実施した。 ① アイスブレイク【昨日学んだこと・ポップコーン方式】 ② 「命の持ち物けんさ」 自分の持ち物を赤「自分にとって替わりのある物」・青「自分にとって替わりのないもの」・黄「そのどれにも当てはまらないもの」に分け、喪失の疑似体験を実施 ③ 動画鑑賞「彼らが手にしていたもの」 ④ 「今の自分にできることは何か」シェアリング	喪失の疑似体験ワークシート

成 果	① 17歳ができる小さな国際貢献を、自分が動き、汗をかくことで実行できたこと。その小さな貢献が地域に広まっていったことを体感した。 ② 何事も「自分が始める」ことが大事だと生徒が深く理解し、始めた自分を自己肯定感として実感できた。 ③ 勇気を出して行動する大切さを生徒が感じてくれたこと。またそんな生徒を地域の皆さんが応援して下さり、1つのムーブメントとなった。
課 題	プロジェクトを次年度にどう伝えていくか・またはどの部署や学年が実施するのか決まっていないこと。
備 考	NIED 「お話の続きを作ろう」ワークシート資料 2-1 から3・ユニセフ「開発のための教育-ユニセフによる地球学習の手引きパイロットバージョン 1992 年」 国連 UNHCR 協会「命のメジャー」 ・ニューズレター「With You」

New Encounter : Promoting Acceptance & Learning

28

所 属	愛知県立豊田南高校	実践者	中島　浩平
対 象	高校２年生（３９名）	実践日	2024 年 11 月～12 月
実践教科	英語コミュニケーションⅡ	時間数	6 時間
テーマ	人権・共生・コミュニケーション		
ねらい	・ 日本とネパールの同一性に気づく、そしてつながりを理解する。 ・ 見えていなかった社会の現実に気づき、自分たちができることを実際に考え、実行できる生徒を育てる。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	Exploring the Self（自らを知る） ① 【アイスブレイク】あなたはどっち？を使用し、クラス内の多様性に気付く。 ② ４人グループにネパールについて書かれた情報カード10枚を正誤に分類する（情報は全て誤り）。その決定は何によって行われたかを分析する。 ③ ネパール研修で撮影した4枚の写真をペアに提示し、1枚選び、自由にストーリーを作成する。 ④ 振り返りとして自分の考えが肯定的か否定的かに気付く。	【アクティビティ参考】「参加型アクティビティ集」（NIED・国際理解センター） 情報カード・写真集（実施者作成）
2	Recognizing the State of Our Society（見えていないものに気付く） ① 日本で働くネパールの人たちに書かれた記事（Worksheet Ⅰ）を読み、感想を書く（宿題実施）。感想をグループでディスカッションする。 ② 負のサイクルカードを使い、グループで正しい順番に並び変える。	Worksheet Ⅰ 負のサイクルカード（実施者作成）
3	Preparing for the Online Session（オンライン文化交流準備） ① 日本で働く海外出身者の数をランキング形式にした Worksheet Ⅱを使い、グループでディスカッションする。その後、答え合わせ。17万人もネパール人が勤務していることに気付く。 ② ネパール BOX を使用し、興味をもった文化教材を英語で紹介できるように準備する。相手の文化について、五感を使って具体的に理解するのがねらい。	ネパール BOX（JICA） Worksheet Ⅱ （実施者作成）
4	Online Cultural Exchange Session（オンライン文化交流本番） ① ペアになって相手校（Vishwa Adharsha Secondary School）の生徒とそれぞれ割り当てられた Breakout Room 内で2対2の構成で交流を行う。	各自のタブレット PC
5	Drafting Your Action Plan（アクションプランの作成） ① Worksheet Ⅲを使い、日本に住む外国人住民が直面する問題（Language Barrier/Miscommunication/Workplace Isolation/Homesickness/Lack of Social Support/Financial Stress/Long Working Hours/Health Issues）において、グループで1つの問題に焦点を絞る。 ② Worksheet Ⅲに記載されているアクションプランフォーマットを参考に、模造紙に問題に対するアクション＆効果、さらにはグループの思いを記載する。	Worksheet Ⅲ （実施者作成） A1模造紙＆筆記用具
6	Group Presentation（アクションプランの共有） ① 5の継続を行う。他グループのアクションも参考にする。 ② 全グループが完成したことを確認し、2分間間隔のポスターセッションを行い、アクションプランの共有を行う。	

成 果	多くの生徒が積極的に取り組み、異文化理解、多文化共生のための意識を高めることができた。ネパール BOX は非常に好評で、高校生の好奇心を刺激してくれた。また、英語の授業で実施したため、教材作成には時間がかかったが、その分生徒は集中して英文を読み込み、多くのことを学んでくれた。
課 題	実際に現地の高校生たちを交流はできたものの、日本在住のネパール人の方などの生の声を聴く機会を設定することができなかったので、3学期に実施したいと思う。生徒の五感をさらに刺激したい。
備 考	

身近な人権について触れてみよう！

29

所 属	NPO 団体　TERASU	実践者	久保田　蒼
対 象	大学 2～4 年生（30 名）	実践日	2024 年　11 月 15 日
実践教科	グローバル市民論	時間数	1 時間 30 分
テーマ	人権、平和、教育		
ねらい	・特権について知ってもらう ・マジョリティ、マイノリティについて触れてもらう		

実践内容

回	プログラム	備 考
15 分	◆はじめに 参加型学習の確認や授業概要の説明。	パワポ
15 分	◆アイスブレイク＜「わたしは」から始める 10 の文章＞ 自分のことを振り返り、仲間との相違点について考える。	資料①
40 分	◆マジョリティ、マイノリティって？ ・25 マス計算【アクティビティ】 実際に社会の中のマジョリティ、マイノリティについて実感する。 ・左利きの不利益って？【ブレスト（ペア）】 社会の中のマイノリティを捉えてみる。 ・マジョリティとマイノリティの利益について【ブレスト】 マジョリティとマイノリティの相違点について考える。	 資料② A4 用紙 模造紙
10 分	◆休憩	
60 分	◆身近な特権についてみてみよう ・『特権』についての動画 特権とはなんなのかを分かりやすく可視化する。 ・『ゴミ捨て選手権』【アクティビティ】 特権について実感する。 ・人権問題はなぜ起こるのか？【ブレスト（派生図）】 社会課題としての因果関係について考える。 ・人権問題に対して自分が取れる行動は？【行動計画表】 自分の生活の中でどういった行動ができるか言語化してみる。	 動画 ゴミ箱、新聞紙 模造紙 A4 用紙
10 分	◆振り返り	ワークシート

成 果	人権というテーマに対して興味が出た、新しい考え方について触れられたという意見があり学ぶ機会が少ない分野について知ってもらうことができた。
課 題	アクティビティや教材、そしてワークショップの手法が噛み合っていない部分があり参加者に何を学んでほしいかが曖昧になってしまった。
備 考	中京大学の「グローバル市民論」としての授業目的は市民活動に対しての実態を捉え社会課題について考えてみることであり、『NPO 団体　TERASU』としての活動などを踏まえた授業をした。

ゲームで学ぶ！労働者の権利と技能実習生

30

所 属	社会福祉法人　無門福祉会	実践者	松田　翼
対 象	中学生～社会人	実践日	2024 年　1 月～９月
講座名	はたらくって何だろう ～労働者の権利と　技能実習生	時間数	90 分（＋a）×３回
テーマ	人権　共生　貧困　経済格差　平和		
ねらい	・労働者が持つ権利について、世界人権宣言や労働基準法を題材に理解を深める。 ・人権が守られにくい立場にある外国人技能実習生を事例に日本の雇用環境の現状を知る。		

実践内容

回	プログラム	備 考
10 分	1・自己紹介・クイズでアイスブレーキング ◇求人雑誌からの導入・〇×クイズ大会	パワーポイント、〇と×のボードの設置
20 分	2. すごろくゲーム実施 ◇ルール説明を行う。 ◇すごろくセットの設置	すごろくセットを用意
15 分	3. 世界人権宣言の説明 ◇世界人権宣言第 23 条、24 条の説明	プリント配布 ①世界人権宣言 ②雇用契約書
15 分	4. 雇用契約書を労働基準法で読み解く ◇雇用契約書の8つのポイントを押さえる ◇労働相談の相談窓口を紹介する	
10 分	5. 技能実習生って？概要説明 ◇制度の成り立ちや実習生の出身国クイズをする ◇日本で働く技能実習生の人数と活躍している産業について	プリント配布
12 分	6. 愛知県で働く技能実習生について ◇技能実習生に関わる 4 名　ロールプレイを実施する	
3分	7. まとめ ◇技能実習生の問題＝日本の労働環境の問題であることを共有 ◇授業者からメッセージ	
5 分	8. アンケート、感想文作成	アンケート、感想シート配布

成 果	・受講者が労働者の権利を知ってアルバイト先で有給休暇をはじめて取得。 ・「重たい社会課題をゲームという手法で伝えてくれたのは、ジブリ作品のようだった」と参加者よりの感想。 ・すごろくを通じて、大人同士でも楽しく労働基準法や技能実習生の現状について知ることができた。
課 題	・ロールプレイは当初、授業者が資料を読み上げて参加者から感想を話しあうかたちだった。しかし、研修を踏まえて技能実習生を取り巻く様々な登場人物の役目を参加者が演じるかたちに切り替えたところ、受講者同士から意見がより活発に出た。
備 考	大量廃棄社会―アパレルとコンビニの不都合な真実―藤田さつき、仲村和代著（光文社新書）　参考文献。 技能実習生を雇用する企業、支援者の方などにインタビューを実施し、教材を作成した。

Ⅶ 開発教育指導者研修（実践編）第4回

第４回「人を啓き、社会を開き、未来を拓く！」

ーつながり・つながる 開発教育の可能性ー

■ 開催概要

◆日時：2025 年 2 月 22 日（土）10:00～17:30
◆場所： JICA 中部なごや地球ひろば 2 階 セミナールームA
◆参加者：受講者 32 名、NIED スタッフ 6 名、JICA スタッフ 1 名 合計 39 名
◆ファシリテーター：（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子

■ 第４回ねらい

○ 実践の成果と課題を共有し、1 年間の学びをふり返り、開発教育の意義と可能性を確認しあう。
○ 開発教育を通して学んだことをフォーラムで一般に向けて発表し、“学びの好循環” を作る一歩を踏み出す。

■ プログラムの内容

＜セッション1＞ 研修のふりかえり

1. 開会・はじめに

- 本研修の目的の再確認と第 4 回のねらいの確認。
- 実践報告フォーラムに向けて各自名札を作成。

2. アイスブレーキング

- 静寂の時間…リラックスして目を閉じ、60秒間耳を澄ませてみる。
- 60秒メッセージと傾聴…ペアで「第3回研修以降の出来事で印象的だったこと」を60秒で話し、傾聴を心掛けて聞き合う。

3. 第1回～第3回のふりかえり

- 資料「第 1 回～第 3 回に取り組んだアクティビティ」を読み、次の 3 点でふり返り、グループで共有する。
  ①研修を通して学んだこと ②自分の中で変化したこと ③もっと知りたくなったこと

■ セッション2 実践の共有

4. 実践の共有と報告

- 「実践報告フォーラム 2025」の実践報告の流れを確認。
- グループメンバーの実践（「実践報告シート集」）を読み、メンバーの実践について概要を確認したうえで、報告と質疑を行う。途中グループを替え、6 人と報告を共有。

■ セッション3　実践の成果とネクストステップの共有

5. 体験して実感した開発教育の可能性～実践を通した成果・よい影響（自分／学習者／周囲）

- グループを替え、他己紹介し合う。
- 研修と実践を通した成果やよい変化・影響を対比表に書き出す。

★研修と実践を通した成果やよい変化・影響★

自分自身にとって

・ファシリテーターとしての意識 UP　・授業の段取りをより意識するようになった　・ふりかえりの重要性を認識
・手法の幅が広がった　・世界が広がった　・やる気が出た　・多様な価値観を受け入れるようになった
・同じ志の仲間を得た　・授業が楽しくなった　・自信がついた　・子どもへの声掛けを意識するようになった

学習者・参加者にとって

・視野が広くなった　・すぐに話し合おうとする姿勢がみられるようになった　・どんどん意欲的になっていった
・セルフエスティームが高まった　・主体性の向上　・ポジティブな言葉が増えた　・クラスが平和になった
・自分事として捉えるようになった　・自分から学びをひろげるようになった　・学びを楽しむようになった

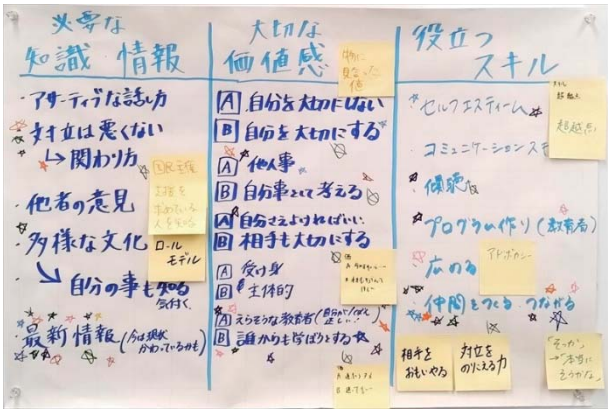
周囲にとって

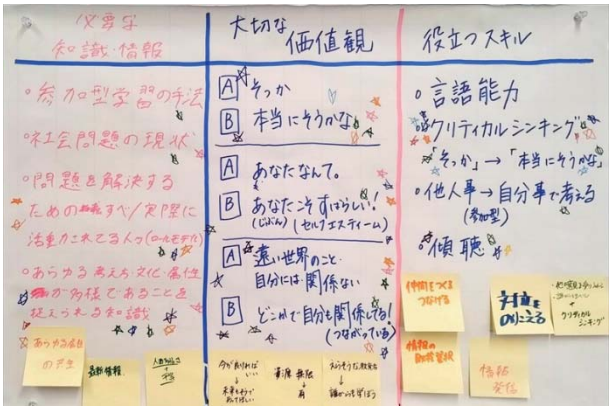
・保護者や同僚が興味をもってくれた　・家庭での学びや実践につながった　・チャレンジの輪が広がった
・「自分もやってみたい！」「うちの学年でもぜひ！」という反応　・合意形成のスキル UP

6.「持続可能なよりよい未来を創る人を育む教育者」の使命

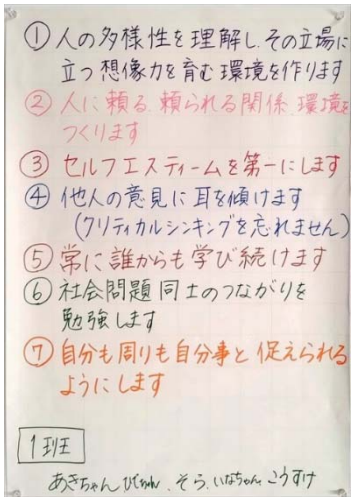
- 持続可能なよりよい社会を創るために、①必要な知識・情報、②大切な価値観、③育てたいスキルを考え、対比表に書き出す。
- 「わたしたち開発教育の担い手は〇〇〇する！」を個人で考えたうえで、グループでさらにアイデアを出し合い 7 か条にまとめる。

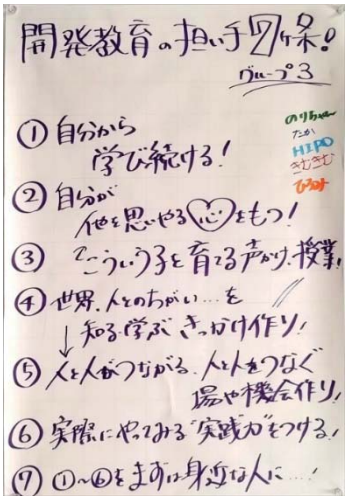
【「持続可能なよりよい社会を創るために、必要な知識・情報／大切な価値観／育てたいスキル」の成果例 】

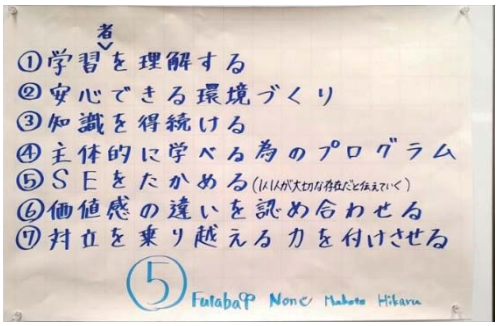


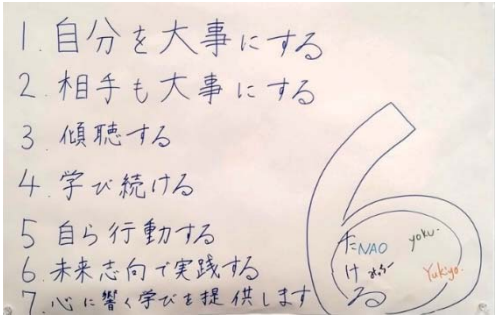


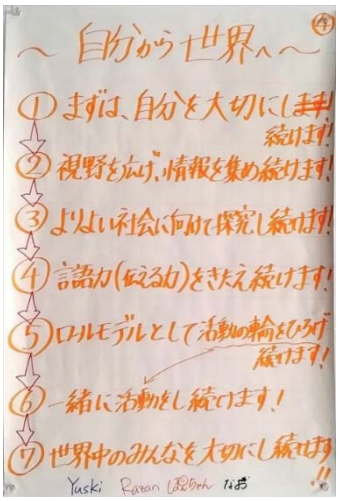
【「わたしたち開発教育の担い手は〇〇〇する！7か条」の成果例 】

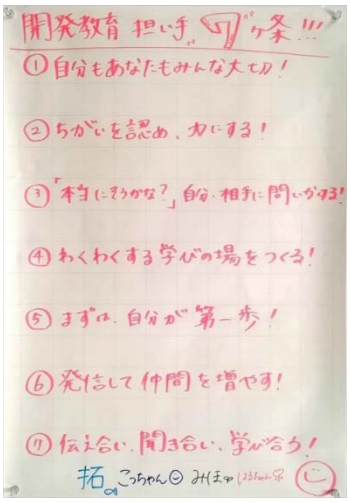


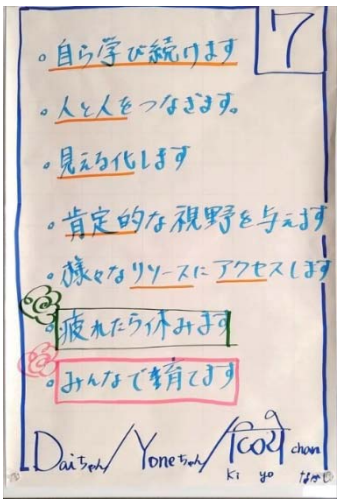












■ セッション4　実践報告フォーラムの準備

7. 実践報告フォーラム 2025 の進め方と各自の動きの確認

- 実践報告フォーラム当日の全体の流れ、受講者の動き・役割、会場配置・導線、参加者の期待などを確認。

8. 研修受講者代表者（最後のあいさつ・エール）選出

- 教師海外研修と開発教育指導者研修（実践編）の両方を経験した受講者が話し合って選出。

9. 実践報告フォーラムへの心構え

- ①フォーラムの各プログラムを通して参加者に持ち帰ってほしいこと、②期待すること／自分が貢献できることを考え、グループで共有。

10. 実践報告フォーラムにおける各種報告の準備

- ①実践体験ワークショップチームによるプログラムの最終確認と当日の準備、教師海外研修チームによる報告準備、③実践報告ポスターセッションの個別の準備を時間を区切って実施。

以上

Ⅷ 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2025

■ 開催概要

◆ 日 時:2025 年 2 月 23 日 (日) 10:00〜17:00
◆ 場 所:JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA・B
◆ 参加者数:一般参加者 116 名、受講者 31 名、JICA3 名、NIED 6 名、合計 156 名
（一般参加者内訳:教員 80 名、学生 13 名、JICA4 名、NPO6 名、その他 13 名、
愛知 80 名、岐阜 7 名、三重 12 名、静岡 7 名、その他 10 名）
◆ ファシリテーター:（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏、研修受講者

■ 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2025 のねらい

①【受講者】実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
②【参加者】実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
③【主催者】開発教育・国際理解教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

■ プログラムの内容

1. あいさつ

- JICA 中部所長より主催者あいさつ、開発教育指導者研修（実践編）と教師海外研修の概要の説明、本日のプログラムの説明。

2. 教師海外研修報告

- 同行ファシリテーター挨拶の後、現地の写真や動画などを投影（P.35 に抜粋掲載）しながら、「ネパールでの驚き&気付き&学び BEST3」、「帰国後の気付き&学び&決意 BEST3」という視点で報告。

3. 実践報告ポスターセッション

- 実践のねらいとプログラムをまとめた「実践報告ポスター」と実践の教材、成果、写真などを掲示して、それをもとに、フォーラム参加者へ 42 分間（14 分×3 セッション）で、一人ひとりが説明及び質疑応答。

4. 実践体験ワークショップ

- 研修で受講者がチームで作成した成果物のうち 4 つを、2 時間の一般向けプログラムとして修正し、受講者がファシリテーターやコーディネーターとなって提供
- 各ワークショップのプログラムの概要は以下のとおり。

実践体験ワークショップのプログラムの概要

① ごみの向こう側

- テーマ： ごみ問題・環境問題
- ねらい： わたしたちが生活の中から出すゴミが、どんな問題につながっているのかを知る。
  ごみを減らすために、自分たちのものの見方・考え方についてふりかえり、行動できるようになる。
- プログラム：1）アイスブレーキング「私が捨てたいもの」
  2）ゴミクイズ
  3）なぜゴミがたくさん出るのだろう？
  4）ゴミの向こう側フォトランゲージ
  5）ゴミ問題をそのままにすると…
  6）ゴミを減らすためにできること
  7）行動思考宣言

② 豊かさってなんだろう？

- テーマ： 人権・豊かさ
- ねらい： 誰もが豊かに暮らせる社会に向けて、共通の課題や豊かさについて考える。
  そのため、「必要なもの」「役に立つこと」「できること」を考える。
- プログラム：1）アイスブレイク「もしも願いが叶うなら」
  2）自分にとって「豊かさ」ってなんだろう？
  3）条件によって「豊かさ」って変わる？
  4）ネパール写真から「豊かさ」を考える
  5）もしも課題が解決されなかったら…
  6）わたしもネパールの人も世界の人も「豊か」に暮らすために必要なものは？

③ つくろう！過疎→華傍の地域を

- テーマ： 地域づくり・過疎問題
- ねらい： 過疎地域（川根本町）の現状を知り、過疎から生まれる課題について考える。
  過疎地域が華傍な地域になる（他人事が自分事になる）ために私たちができることを考える。
- プログラム：1）アイスブレーキング「ふるさと自慢」
  2）過疎地域の事例「静岡県川根本町」の紹介
  3）4つのコーナー～過疎問題に関する考えは？
  4）過疎地域が増えて存続しなくなったら？
  5）川根本町住民の声の紹介
  6）華傍な地域になるための9つの方法
  7）行動宣言と「消滅も仕方ないと考える人に一言」

④ カタチいろいろ

- テーマ：多様性、共生
- ねらい：同じを強制される社会を振り返り、それが続くとどうなるかを考える。
  人と人との違いに気づき、私もあなたも心地よく生きるためにできることを考える。
- プログラム：1）アイスブレーキング「4つのコーナー」
  2）分布図カタチで自己紹介
  3）これってあるよね？疑似体験
  4）〇△□の社会が続くと・・・？
  5）みんなで考えよう！理想の社会のカタチ5箇条
  6）考えよう！これからのわたしのカタチ行動宣言

5. ふりかえり・閉会

- ふりかえりシートとして、①発見したこと、または嬉しかったこと、②これから「つなげていきたい・行動したい」と思ったこと、その他ご自由に（より良くするための提案など）を記入（P.60-61 参照）し、グループで共有。全体でも数人が感想を発表。
- 受講者代表が閉会のあいさつ

6. 雑談交流会

- フォーラム終了後、希望者が残り、1 時間ほどの交流会を実施。

以上

● ふりかえりシートの回答

※「ふりかえりシート」を一部集約して掲載した。

「発見したこと、嬉しかったこと」初参加者

- 様々な地域で実践された生きた手法を知ることができた。
- 単元の流れや教具の開発についてヒントを得られた。
- 参加型手法を使うことで、集まる人たちによってアイデアが全く違う角度から出てくること。
- 様々な立場の教員、教育関係者、学生などと出会い、交流できたこと。
- 開発教育に興味をもつ様々な人たちと出会うことができた。
- 自分と同じ意見の方がいてうれしかった。
- 実践者の方々が、目の前の子ども達一人ひとりを大切にしていることが感じられた。
- 国際理解・開発教育の中にも様々な分野に関する授業があることを知った。
- 他の人と話すと新たな発見がある！それが楽しい。
- あたたかく広い心の方々に出会えた！
- 学校教育のグローバル化のために教員の育成が進んでいると感じた。
- 自分の目・耳・体で理解することは大切なのだと発見。
- 実践者が学んできたことから、それぞれの伝えたい意図を込めたワークショップに参加して学べたことがうれしかった。
- 仲間が増えたこと。
- （いい意味で）頭がパンパンになった。
- 同じ思いをもつ方々と交流しながら、新たな輪が広がるきっかけになった。
- 学び方の方法の勉強になった。
- 国際理解や国際問題についての様々な取組みがあること。
- 取組みの内容は違っても、平和な世界にしたいという想いをもっていることが嬉しかった。
- ワークショップで、自分の意見を肯定してもらえたこと。
- 話し合いの中で、どんどん考えが広がり深まり、楽しかった。
- 自分自身が海外につながりがあるので、先生方の国際理解への熱い思いが聞けてうれしかった！
- 学びの可能性、教科の可能性。
- 自分にできることがあると気づけたこと！
- 年齢、経験に関係なく、力のある教員がいっぱい！
- いままで考えたことのなかった問題、課題について考えた。
- 自分自身が実践できていないことと、続けてきたことはそんなに間違っていなかったんだということが知れてうれしかった。
- 教師海外研修に応募をチャレンジしたい。
- 小学校低学年からできる人権教育。

「発見したこと、嬉しかったこと」2 回以上参加者

- 教科指導の中にうまく取り入れた実践も多く参考にしやすい。
- 自分が受講したときの参加者や元職場の同僚と再会できた。
- 小学校から高校まで、国際理解教育は行うことができると再確認できた。
- 自分の実践をブラッシュアップできる情報が得られた。
- 久しぶりに開発教育にふれて、自分のワクワクを発見。
- 同僚が参加してくれた。
- 新しい出会いや学びが増えていくこと。
- 一緒に参加した同僚と生徒から、「楽しかった」「おもしろかった」という言葉がもらえたこと。
- 毎年参加者が増えていること（開発教育に関心のある方が増えていること）。
- 参加すると、「やってみたい！」という欲と熱が高まるのがうれしい。
- 同じ学校の先生が実践発表をしている姿を見て、関心の輪が広がったと感じたこと。
- 同じテーマでも、アプローチの仕方はいろいろあること。
- 自分の現場で実践できそうなプログラムがあった。
- 私にも「できたらいいな」とおもうプログラムを見つけることができた。

「発見したこと、嬉しかったこと」研修受講者

- 学ぶって本当に楽しいってこと。
- もっともっと授業実践をしたいという思いが湧いたこと。
- いろいろな実践をしている仲間に出会えたこと、つながれたこと。
- 「その実践やってみたい」「来年、海外研修に行きたい」という言葉を聞けたこと、つながりを感じたこと。
- 自分の実践を聞いてもらえたこと、その課題を教えてもらったこと。
- こんなにやっている人がいる！モチベーション UP↑↑
- 経験が浅いうちに、この場に立てたこと。
- 実践発表で勇気をもらった。
- 自分の実践の価値づけをしてもらえたこと。
- ポスターセッションの質疑から、新たな視点をもつことができた。
- 職場の人や友達が来てくれた。
- 多くの文化の中で、いろんな価値観を共有する楽しさ。
- 懐かしい人に出会えたこと。
- 自分の実践を伝える楽しさ。
- やり切ったぞー！達成感。いろんな人に実践をみてもらい、評価してもらったことでやる気 UP
- 発信することは楽しいこと。

- ワークショップの中で、新たな関心をもってもらえたこと。
- ワークショップで参加者から学ぶことが多かった。みんなでつくりあげるものだと実感した。
- ファシリテーターについてもっと知りたいと思うようになった。

「つなげていきたいと思ったこと」初参加者

- 学び続ける、知り続ける。
- 本日学んだことを職場ですぐに還元したい。
- 子どものニーズをつかむことができたら、それについて勉強する。
- 「知ること」が一番大切だと感じた。今日の学びを周りに伝えたい。
- 自分の考えを言え、それが認めてもらえる場は「楽しい」「もっと学びたい！」と思えたので、職場でもそういった場を提供したい。
- 平和な世界に向けてのチャレンジをすることはとても大切。
- オンラインで海外の学校とつないで国際交流をすること。
- よりよい社会にするためには、思いや考えを言葉にして共有し、実践することが大切だと思った。
- 参加したワークショップで考えた行動宣言を実施していきたい。
- 色んな場に行く、一歩踏み出す、情報収集。
- 自己分析と他者理解。
- 教育現場でできること、多様性を認め合える集団づくり。
- 学んだ手法と伝えたいことをより深く理解し、自分事に落とし込んで広められるように努力したい。
- 自分が世界の人とつながる。子どもが、視野を広げることの楽しさに気づけるように、世界とのつながりを還元する。
- 実際に自分で世界に足を運び、その国の背景や価値観を深く味わうこと。
- 人と人をつなぐこと。
- まずは目の前の人、隣の人を大切にすること。
- 未来を担う子どもたちに、自分の目で見て肌で触れたことを伝えたい。
- 大好きな自分をこれからも大切にしたい。
- ぜひ指導者研修に参加したいと思った！
- 挑戦すること。
- 年度が変わって終わりにしてしまわず、より深めた教育活動を計画したい。
- 生徒一人ひとりの意見を尊重しながら授業を進めていくこと。

「つなげていきたいと思ったこと」2 回以上参加者

- この研修を広めたい！
- 多文化共生の学びにつなげる。
- 熱を失わないように、仲間たちとつながっていくこと。
- SDGs に関連した実践をしていきたい。
- 今日の学びを学校や SNS で発信していく。
- 実践することはむずかしいが、参加型にこだわり続けたい。
- 職場で、職員と生徒たちをまきこんでいきます。
- JICA Eduventures の取組み、地域での取組み。
- 実践方法を具体的に考えたい。
- 同僚をもう 1 人連れてくる。
- 情報や手法のバージョンアップをし、学び続ける。
- 3 分、5 分でできることから実践してみたい。
- 教員以外の方の実践を聞き、もっといろんな人と一緒に子どもたちにつたえることができると感じた。
- 最近はなかなか実践できていないので、またやってみようと思いました！
- 教え子を連れてきて参加の輪を広げていきたい。

「つなげていきたいと思ったこと」研修受講者

- 職場の同僚に広げたい。
- 他人事から自分事へ。たえず実践することを忘れない。
- 教師として、教育で次世代を育てていくことが大切！
- 学びを同期・同僚へ、学びの好循環を。
- 世界の現状や課題についてもっと知る！
- 自分たちが理想とする社会をつくる人を育てるということを心に留めて、日々実践すること。
- まずは自分が変わるということも忘れずにいたい。
- 教育者という立場は必ずしも教員でなければならないというわけではないと思うので、多くの人に広げる活動をしたい。
- 開発教育を学校に根付かせること。
- 改めて開発教育を実践していきたいと感じたし、行動する若者を育てる使命感も感じられた。
- 学びの輪を地域に、子どもたちに広げていく！（使命感）
- まずは自分の学校で開発教育を広めたい！小中連携も挑戦！
- いいとおもったものを真似していく。
- これまで自分が実施してきた形を続けることの重要性を強く感じます。
- 私 1 人の行動でも意味があるって信じて努力したいです！
- インプットだけでなく、アウトプットできる場を求めていきたい。

Ⅸ 研修全体のふりかえり・評価

※修了した受講者に対し、全ての研修終了後に実施したアンケート結果を取りまとめた。31 人中 30 人が回答。

■ 研修への期待と満足度について

受講者の開発教育指導者研修（実践編）（以下、「指導者研修」という）に対する期待や目的は、「開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る」（83%）、「自らの視野や能力を研鑽する」（83%）、「参加型学習・ファシリテーターの能力を高める」（67%）、が上位3つとなっている【設問1】。

それらの期待や目標を持った受講者は、研修に対して「とても満足できた」（83%）、「満足できた」（17%）と回答しており、満足度の高い研修であったといえる【設問 2】。

設問 1；指導者研修に期待したこと・目標としたことは何ですか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る	25	83%
2	自らの視野や能力を研鑽する	25	83%
3	参加型学習・ファシリテーターの能力を高める	20	67%
4	世界の現状や日本とのつながりを知る	15	50%
5	実践者同士で交流し、ネットワークを作る	15	50%
6	その他（国際理解授業で活用できるプログラムの作成、新たな学びを得る）	2	7%
	全体	30	100%

設問２；指導者研修は、あなたの期待（あるいは目標達成の支援）を満足させるものでしたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても満足できた	25	83%
2	満足できた	5	17%
3	ある程度満足できた	0	0%
4	あまり満足できなかった＋満足できなかった	0	0%
	全体	30	100%

■研修を受けた自分自身の意識の変化について

● 受講者の関心の高まり

「受講前から関心があったが、より関心が高まった」（73%）、「受講前はあまり関心がなかったが、受講後関心が高まった」（27%）と回答しており、本研修が受講者の人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報への関心の高まりに寄与しているといえる【設問3】。

設問３；研修を通じて、人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報に関心を持つようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講前から関心があったが、受講後より関心が高まった	22	73%
2	受講前はあまり関心がなかったが、受講後関心が高まった	8	27%
3	受講前から関心があり、受講後も変わりない	0	0%
4	受講前はあまり関心がなかったし、受講後も変わりない	0	0%
	全体	30	100%

研修を通して、受講者自身が「地球上で起きている環境や貧困問題と自分とのつながりについての意識化」をしたり、「国際協力について自分にできることの意識化」をしたりできたかについてみると、前者は「よく意識するようになった」と「意識するようになった」を合わせて 90%、後者は「よく考えるようになった」と「考えるようになった」を合わせて93%となっており、本研修は受講者自身の学びや行動に繋がったといえる【設問 4,5】。

設問４；研修を通じて、地球上で起きている環境や貧困の問題と自分たちの生活とのつながりを意識するようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく意識するようになった	19	63%
2	意識するようになった	8	27%
3	ある程度意識するようになった	3	10%
4	あまり意識するようにならなかった＋意識するようにならなかった	0	0%
	全体	30	100%

設問５；国際協力（身近な買い物から直接支援まで）について自分にできることを考えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく考えるようになった	16	53%
2	考えるようになった	12	40%
3	ある程度は考えるようになった	2	7%
4	あまり考えるようにならなかった＋考えるようにならなかった	0	0%
	全体	30	100%

■ 開発教育・国際理解教育の実践について

● 実践時間

受講者の当該教育の実践時間は、「6～10 時間」が 50%と最も多く、次いで、「1～2 時間」が 24%、「3～5 時間」が 17%となっている。平均では 5.9 時間と比較的多くの時間取り組んでいるといえる【設問 6】。

本研修受講前との機会や時間の増減では、「増加した」が 80%であり、受講者の多くが受講前よりも多い実践を行っている【設問7】。増加した主な理由としては、本研修の学びや契機が要因になっていることがわかる【設問8】。一方、実践時間が変わらない理由は、「依頼次第のため（NPO 活動）」（2 名）であった。

設問６；開発教育・国際理解教育の実践時間

No.	選択肢	回答者数	割合
1	1～2時間	7	24%
2	3～5時間	5	17%
3	6～10時間	15	50%
4	11時間以上	3	10%
	合計実践時間数	178	時間
	1人当たり平均実践時間	5.9	時間／人

←各受講者の実践報告シートに基づく。

設問７；本研修受講前と比べた実践時間の変化

No.	選択肢	回答者数	割合
1	増えた	24	80%
2	変わらない	6	20%
3	減った	0	0%
	全体	30	100%

設問８；実践時間の増えた理由は何ですか。（多い理由順に主な内容を記載）

1. 学びによる理解の深化 (9 件)

「何を開発教育というのか学んだから。」「開発教育の手法を学んだからやってみようという気持ちになった。」「問題を解決するための手法を知り、実践したくなった。」「コミュニケーションの重要性をはじめ、学んだことを生徒に伝えたい、学んでもらいたいと強く思ったから。」「実際的な手法と考え方を教えてもらったから。」

2. 実践意欲・動機の向上 (7 件)

「実践意欲が湧いたので。」「子どもたちと考えたいと思える情報や知識が得られ、実践意欲に繋がったから。」「開発教育が身近な物と感じることができたため、実践に繋げることができた。」「研修して、もっと実践したいと思ったから」

3. 授業環境・機会の変化 (5 件)

「国際理解教育をやれる授業を持ったこと。」「授業回数自体に大きな変化はないが、担当教科である家庭科は

生活の営みを取り扱うため、多くの項目においてそのつながりを意識しての授業設計となった。」「今年度研修を受けたことで、他の学年にも依頼されて授業をする機会があったから。」「授業実践（案を書くこと）がマストだったので、まずそのための実践をしたこと。」

4. 初めての挑戦・経験 (4 件)

「以前は、やったことがなく、今回自分で考えて初めて挑戦したから。」「これまでに開発教育・国際理解教育の実践を行ったことがなかったから。」「参加型で教材を開発し、講座を開催したのは初めての試みだったため。」

● 実践内容

開発教育・国際理解教育の実践の内容は深まったかどうかについては、「とても深まった」57%、「深まった」43%と全員の受講者が、実践内容が深まったとしている【設問 9】。

授業実践の深まりには「知識の習得・深化」や「手法・アプローチの向上」が大きな要因として挙げられており、本研修の学びや契機が効果を為しているといえる【設問 10】。

設問 9；開発教育・国際理解教育の実践の内容は深まりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても深まった	17	57%
2	深まった	13	43%
3	ある程度深まった	0	0%
4	あまり深まらなかった＋深まらなかった	0	0%
	全体	30	100%

設問 10；どのようなことが深まりましたか。（多い順に主な内容を記載）

1. 知識の習得・深化 (7 件)

「知識量が莫大に増えた。これまでは自身で調べるか、自分の知っている範囲の信頼できるソースからしか情報を得られなかったのが、その道のプロの方々から正しく深い知識をたくさん得ることができた。」「新たな知識、手法を知った。」「取り扱うテーマや手法について学びを深めることができた(今年度初めて受講し学んだため)。」「人類共通の課題について考える。自分のこと、相手のこと、社会のこと、順番に広がっていく。」

2. 手法・アプローチの向上 (7 件)

「アクティビティやアイスブレイクなどの手法を知った。」「手法を色々試したこと。」「ねらいに沿った手法を取り入れること。」「どの教材を使うのかしっかり考えるようになったから・どこでどの手法をつかうのか考えられるようになったから。」「幅広い学び方の切り口を学べた。」

3. 参加型学習の理解 (5 件)

「参加型のもつそのもののチカラの深さ、広さを知り、その認識を新たにした。」「開発教育・国際理解教育には人権も含まれると知った。」「様々な参加型の手法を理解できた。」

4. 実践力・指導力の向上 (4 件)

「発問が研修前より具体的になり、子どもたちが考える内容が深まった。」「プログラムの流れをよく考えるようになった。」「自分が意識したことが上辺のことで、もっと奥が深くできることがみえたから。」

5. 生徒の学びへの影響 (3 件)

「実際に、見聞きしたことを授業の教材として使用できたことが大きかった。子供たちの食いつきが違った。」「より子どもたちの思いを学習活動に結びつけられるようになった。」「知識を得るだけでは十分ではなく、行動へつながる気づきを与えるための授業作りについての理解が非常に深まった。」

● 参加型のスキル

指導者研修は、行動変容を支え関係性を育む「参加型」と参加型で学び合う場を提供するファシリテーターの役割を理解し、自ら習熟することをねらいに定めて実施した。これらのねらいに対し、受講者がどの程度理解し習熟したかを2つの指標で評価した結果は以下のとおりである。

1つ目の指標「気づきから行動へつながるプログラムの作成」については、「とても作れるようになった」13%、「作れるようになった」37%、「ある程度作れるようになった」50%であり、多くの受講者がプログラムの作成スキルがある程度向上したと認識している【設問11】。

2つ目の指標「学習者主体の手法の活用」については、「とても使えるようになった」7%、「使えるようになった」67%、「ある程度作れるようになった」27%であり、プログラムの作成スキルよりも多くの受講者が学習者主体の手法の活用力が向上したといえる【設問12】。

設問 11；研修や実践を通じて、流れに沿って気づきから行動へとつながるプログラムを作れるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても作れるようになった	4	13%
2	作れるようになった	11	37%
3	ある程度作れるようになった	15	50%
4	あまり作れるようにはならなかった＋作れるようにならなかった	0	0%
	全体	30	100%

設問 12；研修や実践を通じて、学習者が、主体的に考え、学習者同士が学び合えるような問いかけや参加型の手法を使えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても使えるようになった	2	7%
2	使えるようになった	20	67%
3	ある程度使えるようになった	8	27%
4	あまり使えるようにはならなかった＋使えるようにならなかった	0	0%
	全体	30	100%

プログラム作成や参加型手法の活用については、「ある程度」作れる、使えるようになったという回答が一定数あることから、より作れるようになる、より使えるようになるために、研修で提供したらよい内容を聞いた結果が以下のとおりである【設問13】。

設問 13；より作れるようになる、より使えるようになるために、研修でどのようなことを提供したらよいと思いますか。

◇実際にプログラムを作ってみるのを、夏休み終わりではなく、もう少し前に教えてもらえると、比較的余裕のある夏休みにもう少し形にできたかもしれない。
◇経験者に相談しながら、プログラムを作成すること。
◇作る体験がもう少しあるとよいかもしれません。
◇自分で作る機会を増やすことが一番だと思うが、それがあると思うと気遅れする部分もある。ケーススタディのように、参加型を学ぶ際に、一度状況を設定することでより実用的になるのではないかと感じた。
◇フォーラムの午後にあったような、参加者が考えたプログラムを実践し、その結果をフィードバックしてもらえる機会。
◇プログラムをつくる回数をこなす。作ってみていろんな視点で検討する。
◇参加型で授業を展開していく上での適切な発問や言葉がけの言い回し（経験する中で学んでいく物だとは思いますが…）。
◇ねらいにはどのような手法が良いのかを考えること。実際に自分がアクティビティを体験したり、様々な手法を体験したりすること。
◇実践し続け、試行錯誤するのみ。

■ 学習者の変化や周りへの波及効果ついて

● 学習者の変化

開発教育・国際理解教育の実践により学習者のより良い変化があったかについては、「とても変化があった」「変化があった」「ある程度変化があった」と合わせて受講者の 97%が学習者のより良い変化を実感することができている【設問 14】。

設問 14；開発教育・国際理解教育の実践により学習者により良い変化がありましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても変化があった	12	40%
2	変化があった	8	27%
3	ある程度は変化があった	9	30%
4	あまり変化はなかった＋変化はなかった	1	3%
	全体	30	100%

より良い変化の中身については、「自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切にする意識が高まった」57%、「開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった」43%、「自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった」43%が上位の回答率となっており、開発教育・国際理解教育の本筋のねらいの達成が実感されている。但し、“気付きから行動へ”という観点から見ると「自分に出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった」20%が相対的に低い回答になっていることが課題といえる。

また、「自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った」53%、「学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った」43%、「話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった」30%といった参加型学習の導入に伴う副次的な変化の実感があった受講者も一定以上いた。

これらのことから、受講者の実践により、「様々な課題の解決に向かおうとする意識の育成」や「自己肯定感・コミュニケーション・参加協力に関わるスキルトレーニング」に関し、学習者のより良い変化が現れているといえる【設問 15】。

設問 15；学習者にどのようなより良い変化がありましたか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切にする意識が高まった	17	57%
2	自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った	16	53%
3	開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった	13	43%
4	自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった	13	43%
5	学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った	13	43%
6	自らの生き方や共生について考えるようになった	10	33%
7	話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった	9	30%
8	自分に出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった	6	20%
9	その他（より興味を持つようになった）	1	3%
	全体	30	100%

● 学校や団体内の他の職員への波及

所属する学校や団体内の他の教職員に対して、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを伝えた受講者は 93%であり、その具体的な方法は、「日常のやりとりの中で伝えた」が 57%と一番多く、次いで「同僚をフォーラムに誘ったなど」53%、「校内・団体内での報告会・研修会で伝えた」33%、「研究発表（授業公開など）で伝えた」23%、などとなっている【設問 16】。

設問 16；所属している学校や団体内において、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを他の教職員等に伝えましたか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	日常のやりとりの中で伝えた	17	57%
2	同僚をフォーラムに誘ったなど	16	53%
3	校内・団体内での報告会・研修会で伝えた	10	33%
4	研究発表（授業公開など）で伝えた	7	23%
5	共同で教材を作成する際に伝えた	6	20%
6	その他（掲示物、随時管理職に報告）	2	7%
7	どこにも伝えていない	2	7%
	全体	30	100%

周りへの波及の環境として、実践活動への所属する学校や団体の上司や同僚の理解については、「以前から十分に理解してくれている」28%が最も多いが、「以前からある程度理解してくれており、今回より理解が進んだ」21%、「以前はあまり理解してくれていなかったが、今回理解がある程度進んだ」21%と、今回の研修を契機に理解が進んだケースが 42%あった【設問 17】。

設問 17；所属する学校や団体の上司や同僚は、あなたが行う開発教育・国際理解教育や参加型の実践活動を理解してくれていますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	以前から十分に理解してくれている	8	28%
2	以前からある程度理解してくれており、今回より理解が進んだ	6	21%
3	以前はあまり理解してくれていなかったが、今回理解がある程度進んだ	6	21%
4	以前からある程度は理解しているが、現状維持であった	7	24%
5	以前からあまり理解してくれていないし、今回もそれは変わらなかった	2	7%
	全体	29	100%

● 直接提供事業と比較した本研修による学習者への還元効果

開発教育支援の一つとして行っている「JICA が直接学習者に対して教授する国際協力出前講座、地球ひろば訪問プログラム等（直接提供事業）」に対し、本研修は、開発教育を進める中核的な指導者が養成され、研修で得た知識や能力を生かして、自らの現場で多くの学習者に対して継続的に還元することが期待されている。

研修受講者の実践実績から、直接提供事業の場合と比較した本研修による還元効果を計算すると、10.7 倍となった。また、研修受講者は、研修で得た知識や能力、自らの実践などを他の指導者に伝達しており、継続年数による効果と合わせて、さらなる還元効果も見込むことができるといえる。

◇研修受講者による延べ還元量=12,035 人・時間／年（受講者 30 人分の対象学習者数×実践時間）
◇研修投入量=研修受講者数 34 人×研修時間数 33 時間（第Ⅰ回～第4回）=1,122 人・時間／年
◇還元効果（倍）=12,035 人・時間／年÷1,122 人・時間／年=**10.7 倍**

● **開発教育・国際理解教育ネットワークづくりへの波及**

1年間の研修や実践を通した開発教育・国際理解教育ネットワークは、93%の受講者ができたとしている。具体的内容は、「受講者同士」87%、「学校や団体内」27%、「学校・団体外」27%となっている【設問 18】。

設問 18；1年間の研修を通じて、開発教育・国際理解教育のネットワークができましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講者同士でできた	26	87%
2	学校や団体内でできた	8	27%
3	学校・団体の外にできた	8	27%
4	できなかった	2	7%
	全体	30	100%

■ 全体を通した評価、より良くするための提案

● **研修を通して、わたしが「学んだこと」「気づいたこと」「行動しようと思ったこと」など(研修の成果)**

1. 参加型学習の意義と手法の理解 (10 件)
「参加型による学習はより理解を深めることを感じ、できるだけ参加型を応用するようにしていきたい。」「参加型の手法を知ることで、学習者を主体的にすることができるかも!」「参加型の手法を使いこなせるようにたくさん試す。」
2. 学びを広げる・伝える意識の向上 (9 件)
「学びを伝える・発信する(行動しようと思ったこと)」「もっと同僚に広げ、開発教育指導者研修や教師海外研修に誘いたい。」「学び続け、開発教育・国際理解教育をどんどん広げていくこと。」
3. 教育現場での実践への意欲向上 (8 件)
「教育現場でもっと実践しようと思った。」「学校の課題を解決するために参加型で学んだことを生かそうと決意していること。」「子どもたちの心に残る学習活動になるため、継続的に実践していきたい。」
4. 知識・視野の広がり (8 件)
「世界の現実、真実を知り、自身の知識を深められたこと。」「国際理解教育と聞くと、世界のことだとずっと思っていたが、世界のことを考えていくためには、まず、わたし・あなた・みんなについて知り、大切にすることがスタートだということがわかった。」「世界に目が向くようになったこと。」
5. 人権・多様性への理解 (6 件)
「人権教育の大切さ。」「より人権を大切にできるよう行動しようと改めて考えた。」「『人は多様だ』という価値観。」
6. ファシリテーション・指導スキルの向上 (6 件)
「継続してファシリテーションについて学ぶ。」「ファシリテーションしてみたい。」「具体的な手法と考え方。」
7. 仲間・ネットワークの重要性 (5 件)
「仲間がいるのは心強い。」「こんなにも熱意のある先生たちや団体がたくさんあることの驚きと感動。」「研修で出会った方とのネットワークを大切にし、互いに切磋琢磨することが大切だということ。」
8. 行動変容・価値観の変化 (5 件)
「価値観が変わると行動が変わる。」「コーヒーの向こう側で起きていること意識するようになった。」「セルフエスティームの大切さ。」
9. 教育の意義と使命の再確認 (4 件)
「教育を通して、世界は変えられる。その役割を教師が担う。」「1人の 100 歩より、100 人の1歩。だからこそ、最初の1人として研鑽を重ね、ロールモデルになりたい。」「願う世界のために自分が動くことの重要性。」

● 開発教育指導者研修（実践編）第1回～第3回について

（良かったところ＝引き続き提供を希望する内容）

1．参加型の手法やアクティビティの体験（10 件）

「たくさんの手法を学べるところ」「たくさんのワークショップや参加型の手法を教えてくれてとても感謝している。」「たくさんの手法を自ら経験できたこと。自分で体験することで、導入しやすかった。」「毎年アクティビティを変えてくれるので過年度受講者でも大満足だった。」

2．具体的なアクティビティや内容の充実（8 件）

「良かったアクティビティ『なりきり自己紹介』『コーヒーの向こう側』『4 つのコーナー』」「アイスブレイクやアクティビティなど次の日からやってみたいと思える活動が毎回あったこと。」「『セルフエスティーム』『参加型の手法の整理』が良かった。」「いろんな種類のアイスブレイク」「写真を見てストーリーを考える」「伊沢さんのファシリテーション」を継続してほしい。」

3．学びの進め方や研修設計の工夫（6 件）

「その日に学ぶことが明確にされていて分かりやすいところ」「前時の復習があること」「見通しが立つことが良かった。」「研修のまとめをその都度送ってもらい研修時間は活動することに集中でき、振り返りもできた。」

4．参加しやすい環境・場づくり（5 件）

「JICA や NIED の方々のあたたかくて丁寧な場づくりがとてもありがたかった。」「無理強いしないところが参加しやすかった。」「自然体に参加者同士で学ぶことが出来たこと。」

5．参加者同士のつながり・意見共有（4 件）

「たくさんの人とつながれるグループワークがよかった。」「非常にたくさんの参加者同士の意見共有がとてもよかった（異なる視点を知ることで、新たな気づきが生まれた）。」

6．研修のスケジュール・運営（2 件）

「研修の日程が大変だけど、これがベストだと終わってからすごく感じた。」

（より良くするための提案や希望）

◆第3回で具体的にプログラムを作ってみたが、9 月にすぐなってしまい、あまり練ることができなかった。もう少し早い時期だと、自分自身でもう少しプログラムを練る時間が（夏休みに）取れたかもしれない。

◆第 3 回の研修の中で、もう少し指導案について考える時間を設けて欲しかった。

◆2 日間連続×3 ではなく 1 日×6 の方が、参加しやすかった。

◆遠方組からの意見では、第0回としてオンライン説明会やミニ研修があると最初の 1 歩が踏み出しやすい。

◆海外研修との分離　◆今後もゆるやかに繋がっていきたい。毎年のフォーラムも楽しみにしている。

● 開発教育指導者研修（実践編）第4回研修について

（良かった＝引き続き提供を希望する内容）

◇当日だけでなく、前日に一部の参加者の発表が聞けたところ。

◇他の人の発表を聞ける機会が 2 日間あったところ。

◇同じく前日に発表する時間があったためリハーサルできたところ。

◇実際にリハーサルができて、同じ実践者の前で発表することで安心して発表することができた。

◇第4回で実際に自分が行った実践をリハーサルのように他者に伝えることができたことがとてもありがたかった。

（より良くするための提案や希望）

◆第４回の午後も、受講者の発表を奇数偶数で分けても良かったかも（当日、奇数同士だと見られないので）。

◆第４回のところで、自分の聞きたい人の実践を聞ける形がとれるといいなと思った。

◆17 時までの間に、各自がフォーラムの準備をする時間をもう少し設けてほしかった。

◆個人の準備の時間がほとんどなかったので、土曜日にもう少し余裕があると良かった。

◆ワークショップの打ち合わせ時間がもう少しあるとよかった。

● 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラムについて

（良かった＝引き続き提供を希望する内容）

◇今までやってきたことを発表する場、今後について共に考える場があったことが嬉しかった。

◇準備したものを発表できる機会があって、みんなに聞いてもらえたのがよかった。

◇ポスターセッションは準備が大変だがとても達成感がある。自分の実践を聞いてもらうことはとても自信になる。

◇ポスターセッションをすることによって学修者から提案者へと立場が変わったことを自覚することができた。

◇発表の機会があることで、意欲的に実践に取り組めた。

◇ポスターセッションが学年順で並んでいたこと。（準備の段階で周囲の人の実践に触れられて良かった。取り入れたい実践に出会うきっかけとなった。）

◇いろいろな人の発表が見ることができた。　◇発表時間が適切だった。

◇同志たちの実践発表から学ぶことがたくさんあった。

◇実践報告のワークショップの組み立てがすごくよくて参加したいと思った。

◇ワークショップはすごく良い経験になった。　◇ワークショップが良かった。

◇一般参加者に向けてのワークショップは、プログラム作成を考える経験となった。

◇報告後に過去の実践者の方々と交流する機会があったこと。

◇とても濃い2日間で達成感に満ち溢れたところ。

◇実践フォーラムで多くの熱い教育者たちに会えたことがとても価値があった。

（より良くするための提案や希望）

◆他の受講者の発表をもっと見たかった。（5 件）

◆フォーラムの実践報告が小・中・高と学校種別に分かれていたが、混在している方が面白そうだと感じた。

◆全てのワークショップの様子を知りたい。

◆他の発表者や実践を体験できなかったのは悔しかった。

◆ワークショップ2時間は、やる方も受ける方も少し長いのでは？

◆昨年度にあった過年度と現役受講者が交流する時間があると良いと思った。

◆雑談会の紙皿紙コップの使い捨てが気になった。飲み物・食べ物持参にするとよい。

◆批判的な参加者がいて、その人とたくさん話をして理解し合えるよう努めた。雑談タイムは、その方と話していたが、他の方との交流の時間は当然なくなるわけで、皆の交流の場にその人を連れていけばよかったと思う。批判的な参加者への対応を組織的に準備し、周知しておく必要性がある。

◆有志発表のとき NIED ではないスタッフらしき方が途中から参観していたが、名札を見えるようにつけてほしいし、ガムかみながらはやめてほしい。安心安全な環境作りのため。

● 2回以上受講する効果として思うこと

1. 学びの深化・ブラッシュアップ
「スキルと知識のブラッシュアップ」「毎年新たな知識や手法を手に入れられる。」「知識のブラッシュアップが新しいアイデアに繋がる点。20代では授業改善、30代前半では校内研修の持ち方、30代後半では教科横断的な学びのカリキュラムマネジメント、40 代ではファシリテーターの発する言葉など、その時の学年や立場、自分の課題に即した学び方ができる。それは、研修の提供内容の工夫だと感謝している。」
2. 過去の経験を活かした実践の発展
「初回の反省をいかしながら 2 回目の実践を行うことができること。」「過年度の実践を活かしてさらに発展させて実践ができる。」「実践を積み重ねて受講することで、改めて手法の意義を確認したり、多角的に物事を捉えることができたりする。」「より深く学び実践につなげることが出来る。」「どのようなことを学ぶのかを理解したうえで、より目標を明確に学ぶことができるので、より深く学ぶことができる。」「1度目の実践でうまくいかなかったことやプログラムの立て方をより意識して長期的な目で実践ができる（今回は初めてで、流れが見えなかったり成果物がイメージできなかったりした）。」
3. 学びの視点の変化・余裕を持った学習
「体験からスタートではなく、問いをもって体験・学修することができる。」「心の余裕を持って学べる。」「ファシリテーターの助言や介入など内容以外の部分を冷静に見ることができる。」
4. ネットワークの拡大・仲間とのつながり
「ネットワークが広がる。」「新たな繋がりが生まれる。」「仲間が増える。」「初めて受講された方に実践などのアドバイスなどができた。」
5. 実践に活かせる視点の獲得
「教師海外研修で教材収集のイメージがある状態で臨めたことがよかった。」「さらに開発教育指導者として有意義な実践ができる。」
6. 学びの定着・復習の機会
「多くの事を学ぶことができるため、過去に学んだことが少しずつ忘れられてしまう。そのため、2回目を受けることでおさらいをしながら、身につけることができる。」

● その他の自由意見・感想

◇この研修はもちろん、スタッフの皆さん、受講者の皆さんに出会えたこと、本当に幸せに感じている。今後もつながっていきたい。また来る！
◇この 1 年、本当にワクワク楽しく過ごすことができた。学んだことをまずは実践!の 1 年であったため、来年以降はより深く発問や対話、授業展開を考えながら実践に繋げていきたいと思っている。単発で行うのではなく、日頃からの活動の中にもスキルトレーニングを行う機会が取れるように提案しようとも思っている。
◇有志の発表に対する NIED の方の丁寧なフィードバックはありがたかった。
◇とても内容の濃い研修だった。アイスブレイク、自己紹介も多くあり、受講者同士が学びながら安心できる環境になっていったと思う。毎回学びがあってとても楽しく学び実践することができた。
◇生徒の言動やふりかえりから、「授業」ではなく「学び」という言葉が使われるようになり、思考や対話、変容のプロセスとして授業を捉えるようになったことを実感した。また、自身の授業の進め方も指導ではなく「学びや気づきを提供する立場」へと変化し、教員としての負担が軽減されたと感じている。

◇長期にわたって準備から本番まで感謝。楽しい研修になった。

◇研修に参加することで、苦手意識のあったファシリテーションへの捉え方が大きく変わり、参加型の手法を積極的に学ぼうとする意欲が生まれた。しかし、開発教育に関しては、本質的なアプローチや行動の変容の重要性を学びつつも、「現場を見ていない自分が開発教育を実践できるのか」という不安が増し、実践への躊躇が強くなった。経験の有無に関わらず、開発教育を扱う上での「生き方・在り方・考え方」が重要だと理解しつつも、自分にはまだ自信がないと感じており、さらなる学びが必要だと考えている。

◇たくさんの学びに出会えたこと、たくさんの気持ちに出会えたこと、そして、みんなに出会えたことが幸せだった。

◇思っていた以上に自分のやりたいことを実現するために必要なことを考えることができた。また参加者の熱意に「自分はこのままではだめだ」と感じることもあった。来年度への課題も見えた。また機会を大事にして参加していきたい。

◇この研修を通して、世界には自分のために、誰かのために、努力している人が沢山いるとこの研修を通して気付くことができた。研修後の高揚感はたまらなく好きだった。もっと自分にできることがあると、毎回感じさせてくれたこの研修は本当にすごいし、もっとたくさんの人に広まるといいなと思った。この経験を現場で広める！

◇夜の会に参加しなかったことで仲間の広がりが他の方より弱かったように思った。ランチタイムや、お菓子タイムなど、日中にも仲を深める場があると嬉しい。

以上

2024 年度 開発教育指導者研修（実践編） 報告書

発　　行　　2025 年 3 月

発 行 者　　独立行政法人国際協力機構 中部センター（ JICA 中部 ）

〒453-0872　名古屋市中村区平池町 4 丁目 60-7

Tel：052-533-0220（代表）　Fax：052-564-3751

http://www.jica.go.jp/chubu/

ジャイカ
JICA